

朝里叢書 第六卷 朝里青年團史

# 朝里青年團史

小樽・朝里のまちづくりの会 朝里遺産部会編

朝里叢書第六卷の発行にあたって

北海道小樽市朝里地区は昭和十五年に小樽市に合併されるまで、旧朝里村として独立した行政区域であった。この郷土・朝里への深き思いにかられて、昭和初期に、記録伝承の湮滅を憂い、古老、先達に故事来歴の聞き取りを行い、膨大な資料を残した先人がおられた。楽堂、小林 廣翁、その人である。資料は現在小樽博物館に保存されている。

平成十二年、小樽・朝里のまちづくりの会は、かの資料を朝里郷土遺産に指定した。同会の朝里遺産部会はこの資料を朝里叢書として逐次刊行することを企画した。

朝里叢書第六卷「朝里青年團史」の前半は明治中期から昭和初期迄の朝里村山の上（現新光地区）の青年團活動を中心とした、小林廣の資料で

ある。記事によれば山ノ上青年団は大正十年、本村青年団と合同し朝里青年団第一分団と改称している。また朝里第二青年團（男子、女子）は朝里村朝里地区の、小林氏が関係した昭和十一年頃から十四年迄の資料集であり、日中戦争に突入した頃の緊張が伝わる。これらに加えて「朝里青年學校後援會」資料を載せた。青年団活動は日々の自己鍛錬のみならず、地域活性化活動や共同作業、災害復旧活動、社会支援活動の中核となっていたようである。

なお、幾つかの異字体が用いられていたが、印刷の都合上、正字体とした。

平成二十年 四月

NPO法人 小樽・朝里のまちづくりの会

朝里遺産部会を代表して

末永 通

## 目次

一	朝里山ノ上青年團史	五
二	朝里第二青年團記錄	十七
三	歲末夜警日誌（昭和十二年）	四十
四	朝里第二女子青年團記錄	五十六
五	朝里青年學校後援會記錄	七十六

# 朝里山ノ上青年團史

成田勇作氏写

注 成田勇作について

小林廣の義弟（次弟、只Ⅱただし、の嫁フサの弟）であり、古宇郡泊村大字興志内村（盃温泉のあるところ）出身で、姉フサの結婚を機に朝里村に戸籍を移し朝里村役場の書記補となる。大正九年（一九二〇年）第一回国勢調査の際、調査主任として諸般の事務に当たった小林廣より指導を受けた。爲に、廣の「青年團史」原稿の浄書に当たったものである。（小林定典）

# 朝里山ノ上青年團史

## 序

我カ朝里村ニ和人ノ住スルニ至リテヨリ茲ニ參百余年、然レドモ之漁村トシテナリ。サレバ只「かもめ」ノ如ク漁期ニ入り来リテ漁シ漁期ヲ過グルヤ殆ンド人影稀ナリ。斯ノ如キ狀態漁族ノ豊富ナルガ儘ニ久シク繼續反復セラレ明治初年頃ニ漸ク海岸ニ漁家並ビ漁村ヲ形造レリ。然レドモ農耕ニ志ス者無ク山ノ上ノ如キ沃野モ只徒ニ雜木雜草ノ繁茂スルニ任セフリカエル者ナカリキ。

然レドモ内地方面ヨリ入込ミ来ル人年ト共ニ多キニ反シ漁族ノ逐年ニ稀薄トナリ、漁業ノミニテハ生活ノ安定ヲ得ル事困難ナラントセリ。

此ノ時ニ當リ農耕ニ適地ナルヲ信ジ、當山之上ノ沃野ヲ開發セントシテ一鍬ヲ下シタルハ能登ノ人青山三藏氏ナリ。之ニ次キ同年同ジク能登ノ人播摩寅吉氏来リテ住シヌ、シカリト雖モ未ダ農耕ニ無理解ノ人々多キ時代トテ農耕ヲ專業トスル者ノ移住セルヲ奇蹟トスルノミニテ一顧ヲモ與ヘズ、然レ共同氏等ハ逐年同志ヲ呼集シ千古未開ノ地ヲ不完全ナル農具ヲ以テ孜々トシテ開發セリ。其ノ困苦や實ニ想像スルニ餘アリ、斯クノ如ク己奮闘ハ之ヲ老人婦女子ニ到ルマデヨクスルトコロニテ増々移住者ノ数ヲ加ヘ来ルヤ愈々多端ナルニ及ビ、茲ニ青年ノ團體的蹶起ヲ見ル、豈偶然ナラザルベシ、見ヨ宏漠沮々タル美田ハ之皆先輩ノ努力流汗ノ結果ナラザルハナシ青山吉藏氏（三藏氏養子）若者連中ヲ以テ一團ヲ組織當初頭首タリ、而シテ當時既ニ本村ノ發展ハ小樽ト提携スルニ非サレハヨク目的ヲ達成スルヲ得サルヲ看破シ其ノ第一歩トシテ明治二十六年頃小樽附屬消防組ノ組織ヲ見同氏ハ之ヲ兼任青年指導ノ任ニ當レリ。之本團ノ起源トス

永山久太郎氏頭首トナリシ頃只消防組ノ組織セラレシノミニテ何一ツ用具ナキタメ小樽星川組ニ交渉シ星川組ヨリ梯子若干及手押ポンプ壹台ヲ設置シ其ノ他用具ノ殘物購入方ハ全部時ノ青年ノ負擔ニテ其ノ品目ハ絆天、鳶口、提灯等ヲ購入シタリ、時ノ消防組ヲ青年組ト稱ヘタリ其後三四ヶ年間氏ハ良ク頭首トシテ率先躬行若者等ト相計リテ本村開發ノ爲大イニ盡瘁セラレタリ

此ノ當時ノ村民ノ生活狀態ハ每春鮭漁期ニ至レハ集イ来ル概ネ品性粗野ナル漁夫ハ豐漁ニ浮カレ牛飲

馬食猥言鄙語シ風俗ヲ壞乱シ此ノ清淨ナル地ヲケガス事甚ダシカリキ。當時ノ若者連中々先覺者ハ此ノ惡風ニ瀆セラレンコトヲ虞レ極力之カ防止ニ努メタルモ同志連中ニスラ此ノ惡風ヲ快シトスルモノ見ラルルニ至リシハ是非モナキカ、時ノ青年ニシテ今一步進ミ自重シタランニハ血ト汗ノ結晶タル美圃ノ空シク他郷ノ土ノ所有タラザリシヲ

牧田太市氏、播摩甚松氏、井上松吉氏、三津外松氏、井上新吉氏、井原喜作氏、林健次郎氏等相繼ギテ若者頭トナリ同志ノ親睦ヲ計リ體力ノ養成祭祀ノ斡旋等ニ盡ス

(明治四十一年から大正三年まで)

播摩與佐氏頭首トナル 時ニ明治四十一年九月ナリ 栃尾廣氏、片岡幸吉氏等本村農業ノ遅々トシテ発達セザルヲ慨シ頭首ノ贊同ヲ得テ村内農業者全部ヲ網羅シテ組織ヲ變更シ片岡太市氏ヲ會長ニ驚田筆五郎氏ヲ副會長トシテ明治四拾叁年拾月農友會ト改稱セリ 時ニ會員總數參拾五名ナリキ。而シテ同志ノ親睦ヲ計ルハ勿論體力ノ養成ヲナシ且又有益ナル農書ヲ回覧シ極力農事ノ開發ニ努メタリ。

然ト雖モ其ノ範圍ノ廣大ナリシト會ノ主旨ヲヨク全部ニ徹底セザリシタメ、及其ノ他ノ事情ノ爲遂ニ翌年中ニ於テ自然ニ又若者連中ニ還元セラレタルコソ誠ニ本部落トシテ遺憾ノ極ナリ。

其後ニ於テモ播摩與佐氏大正叁年ニ到ル迄ヨク頭首トシテ青年ヲ指導シ部落ノ發展ヲ圖リ敬神ノ美風ヲ助長スベク祭祀ヲ斡旋スルヲ年中行事トセリ。

(大正三、四、五年)

前田富太郎氏頭首トナル、大正叁年九月ナリ 翌四年五月村農會ノ依頼ニヨリ農作物ノ試作ヲナス 其ノ結果良好ナリ 此ノ年十月聖上陛下ノ御即位ノ御大典アリ 此ノ御大典ヲ期トシテ若者連中ヲ青年會ト改稱シソレト共ニ青年ノ發奮スル所アリテ氣風頓ニ改マレリ 此ノ佳節ヲ長ク記念セント會長等本道ノ鎮守札幌神社ニ詣テ境内ニ記念樹ヲ植ヘ聖代ノ千代八千代ヲ祈リ併セテ我力青年會ノ發展ヲ祈レリ。其ノ他従前ノ通り事業ヲナス

鎌田市郎氏大正四年十月推セラレ會長トナル 氏ノ性豪放磊落斗酒猶辭セス 然レ共其ノ解ク処嚴ニシテ正ヨク會長タルノ量ヲ備ヘ實力アル青年タラシメント努力セラル同春前田氏會長ノ時作付セル試作農産物ノ收穫ヲナスト共ニ希望者部落民ハモトヨリ熊確農民ニ到ル迄種子ヲ分配セリ。此ノ頃ヨリ祭祀ハコトゴトク青年會ノ手ニヨリ執行セラルルニ到レリ。

(大正六年 この年から會長選挙は一月になったようである)

大正六年正月新年會ヲ播摩與佐七氏宅ニ於テ催シ兼ネテ青年會長ノ選舉ヲ行フ 其ノ結果播摩與佐七氏會長トナレリ 此ノ日片岡秀氏同輩鎌田京藏氏鷺田筆五郎氏及年少氣鋭ノ士等ト相計リテ此ノ青年分ノ一大革新ノ機運ヲ助長セントシ、上泉中將閣下ノ著書タル蠻勇論ヲ則リ蠻勇會ノ組織ヲ見タリ 之ヨリ一週一回朝里神社拝殿ニ集合シ大イニ義ヲ論シ體力ヲ養成シ、シカシテ同年七月知育涵養ノ意味ヨリ雜誌「熱血」ヲ發刊セリ 會員ノ寸暇ヲ筆ニスル肉筆ノ綴リニテ書アリ画アリ文アリ句アリ青年ノ意氣誌中ニ躍ル

北海ノ寒風寒夜ハ雪ヲ交ヘテ荒ブ時拝殿ニ着ノミ着ノ儘徹夜スルコト幾夜其ノ氣勢眞ニ匹儔(ヒッチュウ)ともがら、仲間) 稀ナルモノアリキ 此ノ駆幹ニ撒シタルハ冬ノ夜寒ニ非ス 此ノ體験ハヤガテ青年俱樂部建設ノ急ヲ痛感シ吾等青年ノ時勢ニ後レザラントセバ一日モ早ク俱樂部ヲ建設スベシト肺肝カラ叫ベリ

時ノ青年々々長者新谷久五郎氏蠻勇會ノ行爲ニ大イニ同情シテ止マズ 先ヅ青年俱樂部ノ必要ヲ同氏ニ圖ルヤ氏大イニ共鳴シ時ノ部長片岡太市氏ニ蠻勇會ノ熱望ヲ傳ヘ現代青年ノ宿望ナリ之ヲ實行セラレン事ヲ傳フ。部長サキヨリ蠻勇會ノ熱望ヲ耳ニシ必要ニ感ジ居リタル折ナレバ異議ナク之ニ賛シタリ。

時ノ部落有志ノ前々ヨリ切望シ居タル電燈ノ施設ハ朝永常三氏ノ盡力ニヨリ愈々此ノ年九月施設ヲ見タリ(電柱十本)

上泉徳弥 慶応元年(一八六五)九月二十五日(昭和二十一年(一九四六)十一月二十七日 山形出身 海軍兵學校十二期。一九一六年「蛮勇論」を雑誌「日本一」第二卷第七号に発表。大正三年十二月一日、海軍中將、予備役 大正十五年九月二十五日、退役

(大正七年)

新谷久五郎氏會長トナル 大正七年正月ナリ 前年ヨリ青年ノ宿望セシ俱樂部建設ヲ部長片岡太市氏部落會ニ提議セシ結果部落民一同雙手ヲ舉ゲテ一致ノ賛同ヲ見ルニ至レリ

愈々青年俱樂部建設ノ機運熟シテ此ノ人ノ會長タルハ實ニ本會ノ幸福ナリ 氏及副部長横川常次郎氏等殆ンド寢食ヲ忘レテ東奔西走建設資金調達ノ爲寄附金募集ニ材料運搬ニ盡力セシハ筆紙ニ述難シ而シテ今年六月起工シ八月竣工ス 總坪數十三坪餘極メテ質素ナル木造ナリ 俱樂部建設ニ依リ青年ノ士氣頓ルニ改マレルノ顯著ナル論ヲ俟タズ 而シテ本會々員中ニ派アルハ結合上不利ナリトノ説アリ 茲ニ蠻勇會モ望ノ大半ヲ遂ゲタル時ナレバ潔キ解散ヲ見タリ

重ネテ記ス 當俱樂部ハ蠻勇會々員ノ隙間モル寒風ニ夢ヲ破ラレツツ徹夜シタル尊キ體驗ニ生ル時ノ蠻勇會々員氏名左ニ記ス 片岡秀、片岡直治、鎌田京藏、井原榮松、林岩太郎、小林源太郎、大平善太郎、大平金作、松永初太郎、鷺田仁三郎、齋藤京治、笠原鐵三、牧田瀧藏等ノ諸氏ナリキ 誠ニ俱樂部設置ハ我青年團史上ニ特筆スベキ事ニシテ之ヲ以テ青年ノ醉生時代ト覺醒時代ヲ區劃スルヲ得ベキカ之ヨリ會則ヲ修正シ會員名簿ヲ整理シ出納簿及會費徵收簿ヲ設備シ着々トシテ青年會ノ面目ヲ一新セリ。而シテ本會ノ年中行事トシテハ前例ノ如ク祭祀ノ斡旋ノ外覺醒時代ノ青年ハ俱樂部設置ト共ニ夜學ノ必要アルヲ痛感シ此ノ年十一月講師トシテ訓導和田幸次郎氏ヲ招聘シテ夜學ヲ開始セリ。主トシテ珠算、公民讀本及先生ノ時代論ナリキ

(大正八年)

中田由太郎氏會長ト爲ル 大正八年正月ナリ 前會長時代ヨリ体育及精神ノ修養上劍道ノ必要アルヲ痛感シ防具ヲ購入セント思ヒシモ俱樂部設立ノ爲部落民ヨリ多額ノ寄附ヲ請ヒタル直後ナレバ詮方ナク忍ビ居リタルモ當年幸ニシテ近年稀有ノ鯉ノ豐漁ヲ見ル、サレバ有志ヨリノ醵金ヲ仰ギ防具三人前及俱樂部内備品ヲ若干購入セリ 腕ヲヤクシテ待テル青年等ハ師範鎌田騎兵軍曹ノ師事ニ猛練習ニワキ目モフ



ラザリキ。恰モ青年會年中行事ノ朝里神社秋期祭典アリ 此ノ日ヲト（ボク、占つて決める意）トシテ社前ニ於テ野試合ヲ舉行セリ 折柄小樽警察署警部松山氏ノ來村アリ此ノ野試合ヲ見火花散ル鋭キ劔ヲ賞讃ノ辞ヲ惜シマザリキ 此ノ日ノ優勝者ハ井原榮松氏太平善太郎氏ナリ 全年九月參拾日俱樂部前二「レール」ノ折端ヲ以テ告知板トシ部落非常及青年ノ呼集ノ爲設置セリ。全年拾月八日手稻山ニ登山ス

（大正九年）

中田由太郎氏再選大正九年正月ナリ 時ノ駐在巡查上野氏ヲ劍道師範トシテ招聘ス 全年八月北海タイル社主催ノ平和記念北海道青年聯合大會ヲ札幌女子尋常高等小學校ニ於テ開催セラルルニアタリ本團ハ之ニ參加シタリ

全年九月會員林多作君不慮ノ重傷ヲ負フ 折柄農家繁忙ノ季加フルニ農務者不足ノ同家ノ困惑一方ナラズ 此ノ時ニ當リ全青年舉ツテ各自多忙ヲ省ミズ馬糧干草刈ノ手傳ヲ爲シ援助ノ美ヲナセリ。

全年九月俱知安第三尋常高等小學校ニ於テ後志聯合青年大會アリ 副團長和田幸次郎氏選手林岩太郎君松永初太郎君等彼地ニ當團ノ意氣ヲ示セリ、當時選手等ハ實費ニテ家事ノ多忙モ省ミズ本團ノ名譽ヲ揚グ可ク努力セリ

而シテ全年十一月當部落ト澤町ト連絡スベキ道路無キ爲部落民ノ不便實ニ甚大ナリシヲ痛感シ時ノ會長中田氏ハ部長片岡氏ニ此ノ意アル処ヲ傳ヘシニ氏大イニ共鳴シタレバ會長率先シテ東奔西走部長監督ノ下ニ全員舉ゲテ部落開發ノ爲メ公共事業トシテ道路ノ一大改修ヲナセリ、全年十一月入退營兵送迎ノ事ヲ定ム 當時迫ハ國家ノ干城トシテ奉公スル壯丁ノ勞ニ謝シ會トシテ何等ノ慰藉方法モ構ゼザリシヲ遺憾トナシ十一日壯行ノ宴ヲ俱樂部ニ開ク事ヲ定メタリ

全年十二月林岩太郎君入營記念ニ旗一旒當團ニ贈ラレタリ

（大正十年 この年朝里本村、山ノ上青年會の合同あり）

小澤三次郎氏會長トナル大正拾年正月ナリ 全年正月二十四日俱樂部ニテ村有志ヲ招待シテ攝政宮殿

下ノ御令旨ノ傳達式ヲ行ヒ後青年ノ劍道試合ヲ行フ 有志諸氏青年ノ意氣旺シナルヲ稱讚セリ  
全年四月造林會社ノ落葉松伐採ヲ引受ケ會員ノ勞金ノ中ヨリ參圓五拾錢宛ヲ醵金シテ會ノ基本金トナシ  
後日ニ備ヘタリ。時ニ會長不在ナレバ副會長播摩松太郎氏代理トシテヨク會員ヲ指揮セリ 而シテ全年七  
月朝里村農會主催ノ櫻桃品評會ヲ當小學校ニ於テ開催セリ 本團ハ會場ハ勿論出品物募集(當村及熊碓村  
文治澤全村寺ノ澤)ニ應援セシコト甚大ナリ 此ノ年ノ八月皇太子殿下本道行啓ノ際札幌圓山神社社前ニ  
於テ拝謁ノ光榮ニ浴シ台覽競技ニモ參加セリ

全年八月朝里村ニ盜難頻發セシタメ時ノ駐在巡查松澤氏ノ依頼ニ依リ本團ハ夜ヲ徹シテ一週間ニ亘リ犯  
人ノ搜索ノタメ夜警ヲナシ應援セリ 會ノ基礎愈々堅ク日ト共ニ發展スルトモ未ダ遺憾ナ會ヲ代表スル  
會旗ナシ國家ニ國旗アル如ク會ニ會旗ナクンバ非ラズ 茲ニ會員一同相計リテ九月部落民ノ了解ヲ得テ  
有志者ノ寄附ヲ仰ギテ札幌五番館ニ注文ス 全年十月本村青年會ト山ノ上青年會トノ合同ヲ見タリ。之我  
等ガ多年ノ宿望タリシモ兩青年會員ノ環境ノ非常ニ異ナレルガ爲實現容易ナラザリシモ村ノ圓滿ナル發  
展ヲ期スルガタメ互ニ犠牲ヲ拂ヘテ結合シ時ノ小學校長町田勇氏ヲ團長トシ訓導和田幸次郎氏ヲ副團長  
トシテ朝里青年團ヲ組織セリ 而シテ我山ノ上青年會ヲ第一分團ト改稱スルコトナレリ 團旗愈々調  
整セラール紋章ハ幹事兼會計片岡秀氏考案ニ懸リ本團ノ理想高遠ナル團ノ面目躍如タリ 本團發展ノ要  
諦トシテ基金ノ増殖ヲ圖ルノ必要ヲ感ズル事切ナリ 此ノ時ニ當リ帝國電燈株ノ募集アリ 其ノ有利ナ  
ルヲ聞キ株式五株ヲ購入セリ。全年九月拾八日朝里校ニ於テ第一回朝里聯合青年大會ヲ開催セリ 我選手  
良ク奮戰シ左記ノ成績ヲ見タリ 選手井原榮松君松永初太郎君優勝セリ

大正六年九月當部落ニ電燈ノ施設ヲ見タリ 之ヲ良機トナシ當俱樂部ニモ施設方出願セシモ會社ノ都  
合ニ依リ許可セズ 詮方ナク良機ノ来ルヲ期待シ居タリ 其後四年ヲ経テ愈々良機来ル 例年ノ通り九  
月秋季祭典ニ直面シテ神社境内ニ電燈ヲツクベク奔走セシ結果電燈ヲ設置スルコトナレリ 時ニ篤志  
家笠原寅三氏此ノ事ヲ耳ニシ電柱トシテ落葉松拾本寄贈セラレン爲俱樂部ニモ電燈ノ施設ヲ見ルニ至レ  
リ 本團ハ從前通り祭祀ノ事ハ全部引受ケ氏子總代監督ノ下ニ之ヲ行ヒ良ク敬神ノ念ヲ養ヘリ。  
冬期間ハ校長町田氏ヲ招キ夜學ヲ行ヒ民法ノ聴講ヲナシ只管智育ノ發達ニ勉メ且又劍道角力ニ體育又ハ  
精神ノ訓練ニ務メタリ

(大正十一年)

小澤三次郎氏重テ分團長トナル 大正十一年正月三日ナリ 此ノ頃ヨリ青年ノ運動熱壯ントナリ全年六月十九日俱知安第三小學校ニ於テ第三回後志聯合青年大會アリ 競技會ニ松永初太郎君多忙ナル家事ヲ省ミズ選手トシテ彼ノ地ニ本團ノ意氣ヲ示セリ

此ノ年ノ七月十六日錢函小學校ニ於テ第二回朝里聯合青年競技大會ノ催アリ我選手鎌田京藏君永山福太郎君松永初太郎君等ヨク戰ヒ他村ヲ壓シ万丈ノ意氣ヲ示セリ

全年九月二十日村社祭典ハ例年ノ如ク万事氏子總代ノ監督ノ下ニ行フ 時ノ團長ニ朝里村自警団ヲ組織スベク其ノ趣旨ヲ解クモノアリ 本團ハ其意ニ贊シ盡力セシモ効ナク全年十月三十一日發團式舉行ノ際發起人側ト青年團員トノ間ニ意見ノ相違アリ當分團ハ第二分團ト共ニ退團スルニ至レリ

此ノ年ノ十二月六名ノ入營兵ヲ見ル 當時ノ青年ノイカニ心身ノ美事ナルカ推シテ知ルベク村民舉ゲテ賞揚ス 蓋シ空前ニシテ絶後ナランカ 冬期間ハ夜學ニ劍道ニ益々隆ンナリ

(大正十二年)

小澤三次郎氏大正十二年三度團長タリ 夜學擊劍ハ益々盛ンナリ 而シテ全年九月二十二日第三回朝里聯合青年競技大會ヲ張碓小學校ニ於テ舉行サル、ヤ永山福太郎君林岩太郎君井原營太郎君等良ク競技ニ努力優勝セリ

(大正十三年)

小澤三次郎氏大正十三年人望篤キ氏ハ四度團長トナル 正月ヨリ芳賀巡查ヲ招聘シテ劍道修業シタリ 正月二十六日攝政宮殿下御成婚佳節アリ 同日白雪ヲ蹴ツテ南方二里餘ノ錦形山天狗岳ニ日昇旗ヲ翻シテ登攀シ遠キ帝都ヲ望ミ帝室ノ万歳ヲ唱へ後祝宴ヲ張り無窮ノ皇運ヲ祝シ奉レリ 之ヨリ先一月七日部落内ノ掃除ヲ引受ケ春秋二回行フ事ヲ約シ其ノ代價トシテ金五拾圓也ヲ受クルコトトシ各青年ニ區劃分担セリ 而シテ全年七月十三日張碓小學校ニ於テ第四回朝里聯合青年競技大會アリ 本團ヨリ選手トシ

テ林岩太郎君井原營太郎君松永弥作君等ノ雄闘シ優勝セリ

此ノ年八月村役場廳舎新築セラルルニ當リ當俱樂部ハ假廳舎トナル 全年九月熊碓村寺ノ澤佐々木正規氏方ニ殺人事件突發スルニ當リ犯人搜索應援ヲ時ノ駐在巡查ニ求メラレ大方團員急遽出動應援セリ

從來朝里神社例祭ハ概ネ余興ヲ夜間ニノミ行ヒ晝間ハ至ツテ寂シカリキ サレバ此ノ欠陥ヲ補ヒ年一度祭典ヲ最モ賑カナラシメントノ意志ニヨリ此ノ年九月二十日ノ秋季祭ニハ樽御輿ノ渡行（ママ、渡御か）ヲ試ム 結果豫想以上ノ好成績ヲ納メ得タリ

全年十月十七日夜第七師團機動演習ノタメ朝里村ヲ通過シ小樽ニ向フ 折柄連日ノ秋雨ノタメ朝里川著シク増水シ朝里橋ノ石垣ヲ崩潰シ爲ニ橋梁危機ニ迫ルヲ夜間之ヲ發見セリ 若シ之ヲ放置センカ一大慘事ノ起ルハ必然タリ 茲ニ於テ我團ハ團員ヲ急合シ在郷軍人ト協力シテ時ノ青年團長町田勇氏ノ指揮ノ下ニ降ル雪ヲモノトモセズ徹夜シテ應急修理ヲナシ翌日ノ行軍ニ支障ナカラシメタリ 而シテ全年十二月大暴風ノタメ發動機船方向ヲ誤リ當海岸ニ坐礁セシタメ本團ハ之ニ救援ス

（大正十四年）

片岡秀氏分團長トナル 大正十四年正月三日ナリ 前後四ヶ年間本團ノ爲ニ多忙ナル身ヲ挺シテ盡力セラレタル小澤三次郎氏ノ勞ヲ常ニ感謝スル團員議シテ鐵瓶一個ヲ贈呈シ同氏ニ謝意ヲ表セリ

社會百般ノ事物駸々トシテ進ム 而レドモ農村ノ稍々モスレバ社會文化ニ後ルルノ傾向アルヲ見ル爲ニ世人ヨリ農民ト謂ヘバ未開人ヲ連想サレ兎角輕視セラルルノキライアリ之アナガチ世人ノ罪ニ非ザルヲ思ヒ茲ニ於テ瀾然トシテ覺ルトコロアリ 我農民文化ニ資スベク會員一同ノ投稿ヲ募リテ雜誌「曙光」ヲ發刊スルコトヲ万（ママ、満か）場一致ニテ決セリ。誌上詩アリ句アリ感想文アリ書アリ画アリ色彩陸離トシテ青年ノ意氣ヲ注溢シ文化的發展ノ曙光ヲ見ル

同月張碓小學校灰燼ニ帰ス 校長黒崎氏ヨク御眞影ノ守護ニ私財ヲ省ルノ慍（さと）アラス一物モ無ク失フ 之モトヨリ當然ノ事ナリトスルモ我青年團ハ其ノ行爲ヲ壯ナリトシ第二分團トモ謀リテ見舞金ヲ贈タリ

全年四月三日神武天皇祭ヲトシテ雪中登山ヲ試ム 之元氣ニ充テル我青年ガ定山溪踏破ヲ切望スト雖モ

皆無經驗ノミカ年少者モアリ万一ヲ慮リ先ヅ朝里山奥ヲ究メン爲ナリ。途中蝦夷松岱ニ至ヤ雜木ヲ綴ル熊群ノ足跡雜然タリ 其中ニ酒杯ヲ傾ケ晝食ヲナシソレヨリ「ワウス岳」ニ至リ張碓ニ下リ歸村セリ

而シテ此ノ年ノ七月小樽署刑事斬リノ事件アリ 犯人朝里奥方面ニ逃走ノ形跡アリト小樽署ヨリ我青年團ニ應援ヲ求メ來ル 我團ハ第二分團ト協力シテ前後二回ニ亘リ犯人搜索ニ應援セリ

全年八月第五回朝里聯合青年競技大會ヲ朝里小學校校庭ニ於テ舉行ス ヨク第二分團ト提携シテ善戰シ我選手ヨク他村ヲ壓シ大イニ我青年ノ意氣ヲ示セリ 時ノ優勝者本間利一君永山福太郎君中村吉三君松永初太郎君松永弥作君井原營太郎君等ノ諸氏ナリキ

全年九月二十日ノ秋季例祭ニ又々村民ノ熱望ニヨリ樽御輿ヲ渡御セシメ得タル金子ニテ神社用ノ紅白ノ幕ヲ新調シテ神社ニ奉納セリ

全年十月十一日觀楓會ヲ張碓山上ニ於テ催シ時ニ霖雨蕭々タリシモ團員ノ意氣ニ恐レテ力漸ク止ム 眼下ニ日本海ヤ石狩平原ヲ見下シ心ユク迄四方ニ滿ツル秋ヲ稱ヘタリ

全年十一月二十一日村社前凹凸甚シク村民ノ不便且又部落ノ美觀ヲ損スル事大ナレバ之ガ修繕ヲナス折柄秋雨沛然タリト雖モ些ノ屈スル色ナク孜々トシテ完成セリ 部落民感ジテ曰ク「若イ者デナケレバ駄目ダ」ト其ノ言ヤ簡ニシテ其ノ意ヤ盡セリ

前會長新谷久五郎氏犧牲的觀念強ク自己ヲ顧ミズ青年等ト雨中ニ大イニ青年ヲ激勵シテ貢獻シタリ

冬期ハ例ノ如ク夜學ニ体育ニ一週間三回集会セリ 是迄ハ俱樂部ノ燃料ハ木炭ヲ利用セルモ「ストーブ」ノ經濟的ナルヲ感ジ之ヲ設置ス

### (大正十五年)

片岡秀氏二度分團長ニ推サル 大正十五年正月三日ナリ 本團ニ林多作君アリ 其ノ性豪膽權化ト言フモ過稱ニ非ズ 三月二十一日單身定山溪へ雪中突破ヲ企圖スコトヲ他人ニ謀ル時無謀ナリト止ムルヲ虞(おそ)レ何人ニモ其ノ意中ヲモラサズ熊群ノ足跡雜然タル中ノ山ヲ越エ木ヲ切りテハ川ヲ涉リ服ヲ沒スル深雪ヲモノトモセズ只一葉ノ陸軍用地圖ヲ便リテ見事途中ノ暴風雪ヲ一蹴シテ同日夕刻目的地タル定山溪ニ達シ而シテ一應温泉湧出ノ狀態等ヲ見學シ一泊モセズ直チニ札幌ニ向フ 札幌驛ニテ明クルヲ

待チ再ビ種畜場及月寒聯隊ヲ見學シ歸村セリ 眞ニ其ノ壯圖ヤ常人ノヨク模倣シ得ル処ニ非ズ 然ルニ同君ハ何等其ノ壯舉ヲ誇リトスル處ナク眞ニ男子中ノ男子ナリト稱スベシ 本團ノ誇リトシテ永久ニ記念セントス

此ノ年ノ六月朝里聯合青年團長大淵氏逝去本分團員一同葬送及葬儀ノ手傳ヒヲナセリ

全年六月電燈株ヲ賣却シ其ノ代金ヲ北海道銀行へ定期預金トナセリ

全年十月三日錢函小學校ニ於テ第六回朝里聯合青年競技大會アリ 兩分團相提携シテ競技ニ又五分間演說ニ殆ンド全勝セリ 競技ノ選手松永初太郎君松永弥作君井原營太郎君片岡直治君五分間演說片岡直治君等ノ諸氏ヨク奮戰セシ結果ナリ

全年十一月十四日寒風雪ヲ孕ンデ物スゴキ斗リナリ 青年ハ予テノ計劃ナル朝里山ノ上第一橫道路ヲ見事一大改修ヲナス

吹雪ノ間ニ隱顯（むきだし、隠れたものが外に表れる）鍬及鶴嘴ヲ振リ攷々トシテ奉仕スル青年ノ姿ノ雄々シサ見ル者アリテ襟ヲ正シ感謝セシメタリ 時ノ青年ノ至情何物力之ニ比セン

## （昭和二年）

林岩太郎氏分團長ニ推サル 昭和二年正月三日ナリ

全年三月二十一日團長林岩太郎氏引率ノ許ニ昨年林多作君單身定山溪突破ノ苦心ヲ知ルベク團員中屈強ノ者七名ヲ選拔シ朝里岳ニ雪中行軍ヲ爲セリ

全年十一月五日朝里澤ヨリ朝里小學校ニ通ズル道路及山ノ上本線、裏通ノ修繕ヲ爲ス

林多三郎君アリ資性温順ニシテ品行方正素行善良ニシテ未ダ曾テ人ト爭ヒタルコトナク模範青年トシテ一般ヨリ賞賛ノ的タリシガ同君同年徴兵検査ヲ受ケ甲種合格トナリ近衛歩兵ニ選定セラレ十二月六日近衛歩兵第一聯隊へ入營ノ爲出發セリ 本團出身兵士中近衛兵ノ嚆矢トス

## （昭和三年）

昭和三年一月三日役員改選ノ結果再ビ林岩太郎氏分團長トナル

秩父宮殿下二月二十四日輕川ヨリ手稻山奥ヒュッテ御成リ 二十六日午後大字錢函村字十万坪ヲ經テ同村字澤ヲ經錢函驛ヨリ午後五時十二分ノ列車ニテ御歸札ニ付キ團員全員指定ノ箇所(錢函村コンクリート會社前ニテ御奉迎ヲ爲セリ。

同年三月三日処女會ヲ女子青年團ト改稱第一分團ト合併セラレ度旨申込マレ同月四日本團役員ト処女會役員ト會見シ合併ニ付キ協議ナス 三月五日本團臨時總會ヲ開キ処女會合併ニ付キ協議シタルモ合併ハ面白カラザル結果トナルヲ豫想シ女子青年團ト改稱獨立セシメ本團役員ガ贊助員トナリ女子青年團重要用件ノミ贊助スルコトニ決定シ三月十日陸軍記念日ヲトシ發團式ヲ舉ケタリ 時ノ男女青年ノ團結ヲ見ルモノ眞ニ新婚ノ一家庭ノ如ク純ニシテ眞ナリキ

龜田鶴松君林多三郎君ノ後ヲ追ヒ近衛歩兵第四聯隊ニ入營決定シ同年十一月二十七日出發セリ 當時ノ會計兼幹事井原榮松氏同君見送り並ニ林多三郎君慰問ノ爲メ上京セリ

#### (昭和四年)

永山福太郎氏分團長ニ推サル 昭和四年一月三日ナリ

同年十一月五日教化總動員實行申合セヲナス

同年十一月十九日教化總動員ヲ期シ貯蓄心ヲ涵養ノ爲メ團員全部ノ規約貯金ヲ實施スル事ニ申合セヲ爲セリ 最低二十錢最高一圓トス

#### (昭和五年)

大平善太郎氏團長ニ推サル 昭和五年一月五日ナリ

龜田力夫君海軍ヲ志願シ多數ノ志願者中ヨリ選バレ合格トナリ採用決定セラレ六月一日横須賀海兵團ニ入團ノ爲五月二十日出發團員全部見送ヲ爲セリ 本團トシテ海軍志願兵採用者ノ嚆矢トス 十一月二十二日令旨奉戴記念式ヲ朝里小學校ニ於テ舉行 參會者三十八名ナリ

十二月一日朝里張碓間土砂崩壊シ團員全部出動シ復旧工事ヲ應援セリ  
十二月三、四ノ両日朝里村本線御大典記念道路切下工事ヲ團ニ於テ奉仕的ニ爲セリ 其ノ勞ヲ多トシ十二  
月四日朝里道路保護組合長ヲ兼ネタル朝里村長池田薫殿ヨリ金五拾圓ヲ賜リ表彰セラル

(昭和六年)

井原榮松氏團長ニ推サル 昭和六年一月二十九日ナリ



# 朝里第二青年團記錄

朝里青年團第二分團々則（昭和十一年十月二十五日、朝里第二青年團と改名）

第一條 本團ハ朝里青年團第二分團ト稱シ事務所ヲ朝里村大字朝里村二十三番地ニ置ク

第二條 本團ノ區域ハ朝里村大字朝里村（字山ノ上ヲ除ク）ノ區域トス

第三條 本團ハ團員協力一致健全ナル國民ノ中堅トシテ現代青年ノ責務ヲ全ウスルヲ以ツテ目的トス

第四條 本團ハ第三條ノ目的ヲ遂行センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、公共事業ニ盡瘁スルコト

二、智德ノ涵養ヲ計ルコト

三、体育ノ旺盛ヲ期スルコト

第五條 四、其ノ他必要ナル事業

本團ニ左ノ役員ヲ置ク

一、分團長 一名

二、副分團長 一名

三、幹事 若干名（内一名ヲ長トス）

分團長ハ本團ヲ代表統理ス

副分團長ハ分團長ヲ補佐シ分團長事故アルトキハ之ヲ代理ス

幹事ハ分團長ノ命ヲ受ケ團務ヲ處理ス

役員ハ團員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任シ任期ハ三年トス 但シ任期滿了後ト雖モ後任者ノ

決定迄ハ仍在任スルモノトス

補欠選任ニ依ル役員ハ前任者ノ任期ヲ承継ス

註 仍ニすなわち、「なお、依然として」の意

## 第六條

本團ノ團員ヲ分チテ左ノ四種トス

一、正團員 正團員ハ十六才ヨリ三十才迄ノ男子トス

二、準團員 準團員ハ十四才ヨリ十五才迄ノ男子トス

三、賛助團員 賛助團員ハ正團員ヲ越エタル者及本團ノ趣旨ヲ賛成シタル者トス  
四、名譽團員 名譽團員ハ本團ニ對シ特別功勞アリト認メ總會ノ推舉ヲ經タル者トス

第七條 團員ハ總テ本團區域内ニ現住スル者ニシテ入團シタルモノニ限ルモノトス 但シ本團區域外ノ者ニシテ入團希望ノ者アルトキハ役員會ノ決議ヲ經テ之ヲ入團セシムルコトアルベシ  
第八條 本團ニ顧問ヲ置クコトヲ得 顧問ハ總會ノ推薦ニ依ルモノトス  
定期總會ハ毎年一月之ヲ開キ前年度ノ團務ノ報告並当年度事業ニ関スル事項ヲ附議ス  
臨時總會ハ役員會ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ開ク

第九條 總會ノ決議ハ出席團員ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス  
本團ハ毎年度剩餘金ノ二分ノ一以上ヲ基金トシテ積立ツルモノトス

第十條 基金ハ總會ノ決議ヲ經ルニ非サレバ之ヲ支出スルコトヲ得ズ  
本團員ハ本團ノ維持發展ノ爲左ノ團費ヲ納付スルモノトス  
但シ特別ノ事情アル者ニ對シテハ役員會ノ決議ヲ經テ之ヲ免除又ハ減額若ハ延納セシムルコトヲ得

一、正團員 一月 拾錢

二、準團員 一月 五錢

三、賛助團員 一年 壹圓以上

名譽團員ハ團費ヲ要セザルモノトス

正團員及準團員ニ對シ總會ノ決議ヲ經テ臨時ニ團費ヲ徴收スルコトアルベシ

第十一條 本團員團員タルノ体面ヲ汚シ且ツ本團ノ名譽ヲ毀損スルノ行爲アリト認ムルトキハ總會ノ決議ニ依リ除名スルコトアルベシ 除名セラレタル者ニシテ改悛ノ情顯著ナルトキハ總會ノ決議ヲ經再ビ入團セシムルコトヲ得

第十二條 本團員ハ本團則ノ外總會ノ決議ヲ經別ニ定ムル細則ニ從フモノトス  
第十三條 本團則ハ總會ニ於テ正團員三分ノ二以上出席シ其ノ過半数ノ賛成アルニ非ザレバ之ヲ変更スルコトヲ得ズ

朝里第二青年團昭和十一年度事業行事並會計報告

一、事業及行事

1 發團式舉行

九月二十三日秋季皇靈祭ノ当夜小樽郡漁業協同組合樓上ニ於テ本團發團式ヲ舉行、團則ノ制定、役員ノ選任アリ 津田朝里村長、館朝里小學校長、和田山ノ上区長ヨリ祝辭ヲ受ク 當時本團名ヲ朝里青年團第二分團ト稱セリ 選任セラレタル役員氏名左ノ如シ

分團長 小林 廣

副分團長 山口悦郎

幹事長 附家六郎

幹事 後藤明夫 富士武夫 村上米作 小松 實 北田辰治

2 沿岸非常警戒

十月三日夜ヨリ四日ニ亘リ西北ノ強風ハ颶風ト化シ波浪激甚 本團区域タル沿岸ノ危険刻々ニ迫ルヲ以テ 後志支廳管内唯一ノ光栄アル行幸御通過ヲ仰ク本村内ニ鐵道ノ故障發生スルトキハ實ニ恐懼ニ堪ヘサルトコロナルヲ以テ本團員ヲ非常動員シ沿岸ノ徹夜警戒ノ任ニ就キ無難ナルヲ得タリ 此ノ人員十八名、延三十六名

3 天皇陛下奉迎送

今秋本道ニ於テ舉行セラレタル陸軍特別大演習御統監及地方行幸ノ爲親シク聖駕ヲ迎ヘ本道民無上ノ光栄ニ感激ス 恰モ十月九日札幌ヨリ小樽ヘ行幸アラセラレタル陛下ノ御召列車ハ午前十時九分朝里駅御通過アリ 本團員ハ村内所定ノ位置ニ於テ奉迎送申上ケタリ

4 映画觀賞會

札幌通信局保險課及朝里郵便局後援ヲ以テ簡易保險局製作ニ係ル映画ノ觀賞會ヲ十月二十一日夜本團事務所ニ於テ開催、保險思想普及上多大ノ効果ヲ収メタリ

5 遭難船救助作業

十月二十三日未明山下汽船會社貨物船滿陽丸（七、一五四屯）ハ本村沖合百五十間ノ箇所ニ座礁遭難シタルヲ以テ本團員ノ非常招集ヲ爲シ漂着シタルドラム罐三百八十二個、角及丸太材八十七本ヲ集メテ同社ニ引継タルノ外同社ノ依頼ヲ受ケ同夜ハ徹宵焚火ヲ爲シテ遭難船トノ連絡ニ努メ翌夜ヨリ二十八日夜迄團員交互ニ徹夜警戒ノ任ニ就キタリ 此ノ出勤人員二十五名延三十六名、尚同社ヨリ此ノ警戒ニ対シ金百円ヲ謝礼トシテ贈ラレタルヲ以テ内十円ヲ出勤員ノ慰勞ニ當テ九十円ヲ本團基本金ニ積立タリ

本團名變更

本團ノ主体タル朝里青年團ハ有名無實ノ狀態ナルヲ以テ此ノ際昇格ノ必要ヲ感ジ十月二十二日第一分團ト交渉シ團名變更ヲ協定、第一分團ヲ朝里第一青年團、本團ヲ朝里第二青年團ト爲スコトトナリ、本團ニ於テハ十月二十五日臨時總會ヲ招集シ團則變更ヲ決議、右ノ通り團名ヲ變更セリ  
行幸記念小公園決定

今秋ノ行幸記念ノ爲本團ニ於テ小公園ヲ開設セントシ朝里村十九番地ノ一社地二百二十七坪ノ位置ハ本村ノ中央、村役場裏ノ高台ニシテ現在巡查駐在所ノ建物アリト雖モ故町田校長ノ頌德碑モ建テアリ眺望絶佳ノ好適地ナルヲ以テ氏子總代ノ同意ヲ得十月二十五日團員出勤シテ地均シ、除草、通路開鑿等ノ作業ヲ爲シ以テ其ノ形態ヲ成シ「行幸記念朝里小公園」ノ標杭ヲ建テタリ  
但シ本事業朝里第二女子青年團ト共同トス

規約貯金實行

本團員ノ貯金思想向上ノ爲メ朝里郵便局ト協力シ、朝里第二青年團、行幸記念貯金組合ヲ設ケ十月分ヨリ規約貯金ヲ開始セリ

記念植樹並國旗柱建設

行幸記念事業ノ一トシテ植樹ヲ爲スコトトシ十一月一日團員出勤シ小公園及村社朝里神社境内ニ左ノ通り記念植樹ヲ爲セリ

独逸トウヒ

五本

トド松

十本

楓

三本

青楓

五本

山櫻

五本

五葉松

三本

當日團員永山友作君寄贈ノ大國旗柱（團旗共）ヲ小公園内ニ建設ス 但シ右ノ二事業ハ朝里第二女

子青年團ト協同トス

10

小公園開園式並國旗掲揚式舉行

十一月三日明治節ノ吉辰ヲトシテ午前八時小公園開園式並大國旗掲揚式ヲ舉行、本團員及第二女子青年團員、村有志、小學生徒等参列ス 小松村會議員ヨリ祝辞ヲ受ケ

11

明治節拝賀式参列

從來朝里小學校ニ於ケル四大節拝賀式ニハ青年團員ノ参列ヲ見ザリシハ甚ダ遺憾ナリトシ

本團ニ於テハ率先シテ今後ノ拝賀式ニ参列スルコトトシテ先ヅ第一ニ明治節拝賀式ニ参列ス此ノ日第一青年團員ニ於テモ初メテ参列セリ

12

禁酒實行

十一月七日ヨリ十三日迄ノ精神作興週間ニ於ケル適切ナル實施事項トシテ同月十日ノ克己日ニ当リ本團ニ於テハ本團ノ集會上將來絶対ニ和洋酒ヲ用ヒザルコトトセリ

13

國旗調製

本團及第二女子青年團ニ於テハ協力一致其ノ使命ヲ全フスルノ第一方針トシテ團旗ヲ調製スルコトトナリ此ノ寄附募集ヲ本團役員ニ於テ引受ケ十月十五日ヨリ村内有志ニ対シ應分ノ寄附募集ニ着手シタルトコロ意外ノ贊助ヲ受ケ總額百三十九円四十錢人員百四名ノ寄附ヲ得タリ、而シテ本村出身徳光忠夫君ノ犠牲的援助ニ依リ團旗二旒ヲ金九十円ニテ東京向島笹川友仙工場ニ於テ調製ス其ノ圖案ハ役員協議ノ上日章旗ニ紫ノフレンジトセリ

14

團服制定

本團員ニ対スル團體精神ノ統一ヲ圖リ將來ノ活動ニ資センガ爲メ團服ヲ制定セントシ十一月八日團員ノ集合ヲ得テ一決、直チニ小樽小祝洋服店ニ命ジテ調製セシメタリ 此ノ團服一着分(團帽付)金四円ニシテ團ノ基本金ヲ流用シテ支拂ヒ團員ニ対シテハ十一月ノ月賦トシタリ

15

團旗入魂式舉行

十一月二十二日ノ青年記念日ヲトシ本團並朝里第二女子青年團ノ團旗入魂式ヲ午後一時ヨリ朝里小學校ニ於テ舉行 両青年團員及村有志、寄附者等多數参列 朝里神社々掌加藤熊次郎氏司式ノ下ニ嚴肅裡ニ終了 津田朝里村長、小松村會議員、和田山ノ上区長、西尾駐在巡查ヨリ祝辞ヲ受ケ

16 参列者全員ニ対シ紅白ノ饅頭、紅白ノ供物ヲ配付ス 式後團員ノ記念撮影ヲ爲セリ  
除隊兵出迎

十月二十一日輜重特務兵前田武君、十一月三十日歩兵岩野重次郎君、同稗田政市君、工兵花田次雄君、十二月一日重砲兵落合勇君除隊歸村ニ付團員ハ朝里駅ニ出迎ヘ尚朝里神社前ニ於ケル除隊奉告式ニ参列セリ

17 歳末夜警奉仕

十一月二十六日西尾駐在巡查ハ不慮ノ公傷ニテ入院治療セシ爲メ、村内ノ治安維持上十二月一日夜ヨリ大晦日ニ至ル迄本團員總出動ヲ爲シ、之ヲ七班ニ分ケ交互ニ歳末夜警ノ任ニ就キ二十五日夜ヨリハ徹夜警戒トセリ 此ノ出動人員三十一名延一二三名トス

## 二、會計決算

### 収 入

一金 二百七十九円五十七錢也

収入總額

#### 内 譯

金 百円也

山下汽船會社ヨリ謝礼金

金 百三十六円四十錢

團旗寄附金百三名分

金 四十円十七錢

團費及團服代回收金

金 三円也

永山友作君ヨリ寄附金

### 支 出

一金 二百六十一円七十錢也

支出總額

内譯

金十円也	遭難船救助出動二付慰勞費
金九十円也	團旗二旒調製費
金五円十五錢	團旗送料及雜費
金二十円七十錢	團旗入魂式諸費
金百二十円三十錢	團服購入立替金
金二円九十錢	記念小公園設備費
金三円也	記念植樹苗木代
金四円四十五錢	電燈料及雜費
金五円二十錢	第二女子青年団へ團旗寄附金剰余金割当

差引

一金	十七円八十七錢也	決算剰余金
----	----------	-------

剩餘金處分方法

一金	九円也	團則第九條ニ基キ基金トシテ積立
一金	八円八十七錢	昭和十二年度へ繰越

右ノ外左ノ債權ヲ有ス

一金	九十円也	團服代各團員ニ貸付中
一金	三円也	寄附金未納一名分
合計	金九十三円也	

三、現在團員數

準團員	二名
-----	----



正團員 三十六名  
賛助團員 十五名

計 五十三名 昭和十二年一月一日現在

右報告ス

昭和十二年一月一日 朝里第二青年團々長 小林 廣

朝里第二青年團昭和十二年度事業及行事報告

一、定期總會

一月一日開催、諸般ノ報告、事業ノ協議ノ外左ノ顧問ヲ推戴ス

朝里村長津田運吉氏、同夫人津田歌子氏、朝里小學校長館豊寿氏、同夫人館ミサ子氏、  
佐藤藤吉氏、同夫人佐藤チマ子氏、朝里郵便局長小松市郎氏、同夫人小松ハツ子氏、  
朝里駅長三浦虎之助氏、同夫人三浦マツ子氏

二、入營兵歡送

一月九日日本村ヨリ歩兵渡辺松雄、同水間薫、工兵大谷利勝、三氏入營ニ付歡送

三、朝里村聯合青年團總會

一月二十九日朝里村聯合青年團總會ヲ村役場ニ開催、本團ヨリ十五名出席ス

四、雪崩降シ

一月三十一日兒童通學上危險ナル斜面道路ノ雪崩降シヲ行フ、團員八名出動

五、入營兵歡送

二月二十日關東軍ニ入營ノ能登勇氏ヲ歡送

六、スキー大會

二月二十一日日本團主催第一回朝里スキー大會ヲ中田山ニ開催、顧問三浦氏ヨリ優勝カップヲ寄贈、尚北海タイムス社、小樽新聞社ヨリ優勝メタルヲ寄贈セラレ盛會裡ニ閉會セリ

七 國旗柱運搬

三月三日團員出動朝里川上流ヨリ國旗柱ヲ伐採運搬シ来レリ

八 産業講習會出席

後志聯合青年團主催漁村中堅青年産業講習會ヲ三月五日ヨリ九日間余市町ニ開催、本村四ヶ村ヨリ選拔セラレ本團ヨリ副團長山口悦郎君出席多大ノ効果ヲ収メ歸村、同月十一日之カ報告會ヲ村役場ニ開催、津田村長初メ各係員本團ヨリ各役員出席セリ

九 館顧問死亡

三月十三日本團顧問館豊寿氏死亡、十五日ノ葬儀ニ團員多數参列、本團ヨリ花輪及弔詞ヲ呈シタリ御下賜金傳達

一〇

五月二十九日朝里村長ヨリ前年ノ行幸奉仕青年團ニ対シ御下賜金アリ本村各青年團ニ金十円、内本團ニ対シ金五十錢御下賜之カ傳達式ヲ舉行セラレタリ

一一

國旗柱建替

七月四日本團経営ノ記念小公園内ノ國旗柱ノ建替ヲ行ヒ園内ノ手入ヲ爲シタリ

一二

朝里聯合青年團臨時大會

七月二十八日時局認識朝里村聯合青年團臨時大會ヲ村役場ニ開催、本團ヨリ十五名出席ス

一三

團員出征

七月二十七日第一回ノ動員下令アリ、本村ヨリ田付幸吉、村上健次郎、播摩與志松三君應召、田付、村上ノ二君ハ本團員タリ、依テ同月二十九日夜盛大ナル壯行會ヲ開催ス 而シテ八月一日村上君、同月二日田付君出發全團員ノ歡呼ノ声ニ送ラレタリ

一四

後志聯合青年團大會

八月七日、八日後志聯合青年團大會ヲ俱知安ニ開催、本團ヨリ團旗ヲ携帯、幹事長附家六郎、幹事小松實ノ二君出席セリ

一五 北海道聯合青年團大會

八月十五日、十六日ノ両日、北海道大博覽會開催ノ機會トシテ

小樽市ニ第一回北海道聯合青年團大會ヲ開催、朝里四ヶ村ヨリ出席人員割当一名ニ本團當選、依テ、團長小林廣出席セリ

一六 團員死亡弔意

八月十九日本團員本間定雄君死亡、本團ヨリ香料ヲ呈シ尚葬儀ノ際團員多數會葬セリ

一七 古雜誌報國

九月一日ヲ期シ大日本聯合青年團主唱ニ係ル全國ヨリ古雜誌ノ募集ヲ爲シ之ヲ以テ陸海軍ニ飛行機獻納ノ件ニ対シ本團ハ欣然参加、各團員ハ古雜誌六十貫ヲ募集之ヲ大日本聯合青年團ヘ發送セリ相撲大會

一八

九月十八日朝里不動尊秋季大祭ニ當リ社主塚原啓道氏ヨリ依頼ヲ受ケ本團後援ヲ以テ全朝里小學生相撲大會ヲ開催シ多大ノ効果ヲ収メタリ

一九

時局講演會

九月二十八日本團ハ在郷軍人分會ト共催ヲ以テ時局講演會ヲ村役場ニ開催、講師ニ道議佐藤一雄氏ヲ招聘、聴衆二百余名盛會ヲ極メタリ

二〇

御親閲記念大會

十月三日御親閲記念朝里村男女聯合青年團大會ヲ張碓小學校ニ於テ開催、本團ヨリ五名出席ス

二一

南京陷落祝賀

十二月十二日南京陷落祝賀ノ旗行列、提灯行列ヲ各種團體ト共ニ吹雪ヲ犯シテ實行、本團員多數参加シ盛況ヲ呈セリ

右ノ外下記ノ通り

四大節拝賀式ニ参列、出征兵ニ慰問狀發送、出征兵家族慰問銃後後援會ニ役員参加シ活動、朝里村防護團ニ團員参加シ活動、國民精神總動員講演會ニ聴講並實施週間ニ活動、失踪人ノ捜査ニ出動、貯金思想普及ノ故ヲ以テ貯金局ヨリ湯吞三十個寄贈

現在團員數

準團員

一名

正團員

二十三名

贊助團員

十五名

顧問

八名

昭和十三年一月一日現在

右報告ス

昭和十三年一月三日

朝里第二青年團々長

小林 廣

朝里第二青年團昭和十二年度決算報告

収入

一金 百参拾参圓九拾貳錢也

収入總額

内譯

金 五拾錢

御下賜金

金 貳拾六圓八拾錢

團費

金 六拾九圓六拾錢

團服代貸付金返済

金 拾貳円也  
 金 八圓八拾七錢  
 金 拾六圓拾五錢  
 謝礼金及寄附金  
 前年度繰越金  
 雜收入

支出

一金 百參圓九拾七錢也  
 支出總額

内譯

金 參圓四拾四錢  
 金 參圓六拾錢  
 金 六圓也  
 金 拾圓九拾錢  
 金 壹圓也  
 金 參圓也  
 金 七拾圓拾錢  
 金 五圓九拾參錢  
 スキー大會費  
 朝里聯合青年團負担金  
 北海道、後志、兩聯合青年團大會諸費  
 慶弔送別諸費  
 講習會諸費  
 諸會合費  
 基金へ返済  
 雜費

差引

一金 貳拾九圓九拾五錢也  
 決算剩餘金

○ 剩餘金處分方法  
 一金 拾五圓也  
 基金へ積立

一金 拾四圓九拾五錢

翌年度へ繰越

○ 資産表

一金 九圓也

前年度末基金總額

一金 七拾圓拾錢

御下賜金及貸付金返済ニ依ル積立

一金 拾五圓也

本年度剩餘金ヨリ積立

計 金 九拾四圓拾錢也

一金 貳拾圓四拾錢

貸付金回收未済額

合計 金 百拾四圓五拾錢也

右 報告ス

昭和十三年一月三日

朝里第二青年團々長

小林 廣

朝里第二青年團昭和十三年度事業並行事報告

(創立第三年)

一 武運長久祈願

一月元旦札幌神社初詣ニ小林團長、小松、富士岡幹事ハ皇軍將兵及本團員出征兵諸君ノ武運長久ヲ祈願セリ

- 二、定期總會  
一月三日午後一時ヨリ開會、顧問ニ朝里小學校長秋元元太郎氏ヲ推戴、終ツテ團員村上健三、後藤明次郎兩君ノ壯行會ヲ開ク
- 三  
道路除雪  
一月四日學童通學上危險ナル斜面道路ノ除雪作業ヲ爲ス
- 四  
團員出發  
一月七日團員村上健三君橫須賀海兵團入團ニ付出發歡送ス
- 五  
團員出發  
一月九日團員後藤明次郎君旭川七師團ニ入營ニ付出發歡送ス
- 六  
傷病兵慰問  
二月八日郷土出身今義春上等兵、客年十月二十四日折口鎮ノ戰鬪ニ於テ戰傷十二月三十日原隊ニ歸還、旭川陸軍病院ニテ治療中ニ付キ小林團長本團ヲ代表シ慰問ス
- 七  
スキー大會  
二月二十七日日本團主催第二回スキー大會ヲ中田山ニテ開催、競技種目小學生二十種、第三方面ニ優勝カップ授與、個人競技ニテ五年木村栄一飛躍一四米九〇、小樽新聞メタル授與、盛會ヲ呈ス
- 八  
軍人家族慰安會  
三月六日朝里小學校、同青年學校、朝里第一、同第一女子、同第二女子各青年團共催ニテ出征軍人家族慰安會ヲ朝里小學校ニテ開催、午後五時ヨリ同十一時マデ、觀衆六百余名未曾有ノ盛況ヲ以テ終ル
- 九  
御名代宮奉迎  
皇后陛下御名代宮、賀陽宮妃殿下傷病兵御慰問ノ爲メ御來道、五月十二日、全月十七日朝里駅御通過ニ付鐵道沿線ノ警戒ヲ爲シ奉送迎セリ
- 十  
徐州陥落祝賀  
五月二十日徐州陥落ニ付全月二十五日官民合同、午後一時ヨリ旗行列、午後七時ヨリ提灯行列舉行、本團員舉ツテ参加ス

- 一一 團員出發  
五月二十七日團員渡辺廣行君、横須賀海兵團ニ入團ノ爲出發、歡送ス
- 一二 事変一周年記念  
七月七日事変一周年記念日ニ付朝里村主催ニテ午後一時ヨリ朝里神社ニ於テ儀式舉行、本團ヲ代表シ小林團長出席ス
- 一三 廢品献納  
七月七日事変一周年記念一戸一品廢品献納運動ニ参加シ各戸ヨリ鉄屑募集ス
- 参考 錢函 九四円一〇 熊碓 八円六七  
張碓 一一円一五 文治沢 二円七七  
朝里 二二円八二 計 一三八円五一
- 一四 地上爆撃見學  
八月七日錢函浜中ニ於ケル七師團對空地上爆撃演習ニ團員多數見學セリ
- 一五 流燈會開催  
八月十七日、第二女子青年團ト共催ニテ朝里駅前浜ニ於テ本村出身戦死者故奥山正雄曹長及一般戦歿將兵慰靈ノ爲、流燈法會ヲ催ス 朝里村空前ノ催ニシテ頗ル美觀盛況ヲ呈セリ
- 一六 村葬参列  
八月二十九日朝里小學校ニ於テ故奥山曹長及熊碓村出身戦死者故佐々木藤吉郎上等兵ノ合同村葬ヲ舉行、本團員多數設備係トシテ活動ノ外村葬ニ参列、小林團長朝里村各青年團ヲ代表シテ弔詞ヲ呈ス 尚奥山家ニ対シ數度通夜ニ参詣、花輪ヲ贈呈シ本通夜ニ際シテハ團員手傳ヲ爲ス等援助ス (奥山曹長ハ五月二十八日渦陽附近ノ戦闘ニ於テ戦死、佐々木上等兵ハ五月二十日韓道口ノ戦闘ニ於テ戦死)
- 一七 ヒットラー・ユーゲント歡迎  
九月五日独逸ヒットラー・ユーゲントノ一行三十名朝里駅午前九時半通過ノ際本團員多數歡迎セリ
- 一八 團員應召出發  
九月十二日本團員後藤茂夫君名譽ノ應召出發ニ付歡送ス



一九 團員死亡

九月十一日團員糸川義夫君死亡、十三日ノ葬儀ニ團員會葬ス

二〇 團員應召出發

九月十五日團員後藤明夫君名譽ノ應召出發ニ付歡送ス

二一 相撲大會

九月十八日、朝里成田山不動堂主催本團後援ノ第二回全朝里小學生相撲大會開催、團體競技ニテ朝里校ニ優勝旗授与、個人競技ニテ張碓校ニ村長杯ヲ授与ス

二二 團員應召出發

九月二十日、團員永山喜三夫君名譽ノ應召出發ニ付歡送

二三 村葬參列

九月二十五日錢函小學校ニ於テ錢函出身故須藤專一上等兵ノ村葬舉行ニ付本團ヨリ小林團長參列セリ（須藤上等兵ハ八月八日張鼓峰ノ戰鬪ニ於テ戰死）

二四 漢口陷落祝賀

十月二十一日廣東陷落、十月二十七日漢口、武昌、漢陽ヲ完全占領ニ付二十八日午後一時ヨリ旗行列、午後六時ヨリ提灯行列ヲ催ス 本團員多數之ニ參加セリ

二五 事變講演會

十一月三十日午後六時ヨリ朝里村役場會議室ニ道會議員田中信夫氏ノ滿州、北支皇軍慰問使トシテ現地報告講演會ヲ催ス聽衆多數盛況裡ニ閉會ス

以上

現在團員數

正團員

十六名

贊助團員

十五名

顧問

八名

昭和十四年一月一日現在

右報告ス

昭和十四年一月 日

朝里第二青年團々長

小林 廣

朝里第二青年團昭和十三年度決算報告

収入

一金 四拾九圓〇五錢也

収入總額

内譯

金 四圓六拾錢

貸付團服代返済金

金 貳拾四圓五十錢

團費

金 五圓也

寄附金

金 拾四圓九拾五錢

前年度繰越金

支出

一金 参拾八圓六拾参錢也

支出總額

内譯

金	貳圓六拾參錢	スキ―大會費
金	六圓四拾八錢	流燈會費用
金	拾壹圓六拾錢	慶弔送別諸費
金	五圓也	總會費
金	貳圓拾錢	小公園維持費
金	壹圓五拾錢	道路除雪費
金	參圓八拾錢	備品費
金	九拾貳錢	家族慰安及戰捷祝賀費
金	四圓六拾錢	基金へ返済金

差引 金拾圓四拾貳錢也

決算剩餘金

一金	拾圓四拾貳錢也	剩餘金処分書
金	六圓也	此ノ處分
金	四圓四拾貳錢也	

剩餘金

基金へ積立  
翌年度繰越

一金	百貳拾圓五拾錢也	資産調書
金	百四圓七拾錢也	内譯
金	拾五圓八拾錢也	

總額

郵便貯金  
團服代貸付中

右報告ス

昭和十四年一月 日

朝里第二青年團々長

小林 廣

男子女子 各團員にお願いします

團長より

朝里第二青年團員で軍務に服し第一線で活躍せられ或は原隊に在って待機中の者左の通りであります。何卒一ヶ月に一本宛でもお便りを差上げてその労を犒ってやって下さい。勇士は諸君よりのお便りを待望して居ります。

後藤明夫 君 南支派遣軍田中忠部隊氣付市村部隊本部

竹内武尚 君 南支派遣軍杉本部隊氣付飯島部隊第二分隊第二班山口縣四五号船内

田付幸吉 君 中支派遣東部隊森竜部隊前川部隊

村上健次郎 君 北支派遣軍第二百二十野戰郵便局氣付伊藤部隊第一分隊第三班

後藤茂夫 君 滿州齊々哈爾須見部隊小林隊  
(齊々哈爾||チチハル、中国黒龍江省)

村上健三 君 大日本第十驅逐隊曉第一分隊第三班

渡辺廣行 君 大日本軍艦利根第十分隊

後藤明次郎 君 旭川栗屋部隊桑原隊

永山喜三夫 君 旭川栗屋部隊栗原隊

昭和十四年二月一日現在

朝里第二青年團昭和十四年度會計報告

收入

一金 四拾壹圓七拾貳錢也

收入總額

内譯

前年度繰越金

四円四二

團費

一〇、八〇

寄附金

二〇、〇〇

謝礼金

六、五〇

支出

一金 四拾壹圓貳拾貳錢也

支出總額

内譯

スキー大會費

三円〇〇

出征軍人家族慰安會費

三、五〇

戰死者慰靈費

五、七〇

團員應召入營帰還費

四、〇〇

第二回流燈會費

八、五七

相撲大會諸費

四、五五

大國旗購入費

一、〇〇

小公園維持費

一、〇〇

差引

一金 五拾錢也

決算剩餘金

剩餘金処分方法

一金 参拾錢

基金積立

一金 貳拾錢

翌年度繰越

基金現在報告

一金 壹百五圓也

基金總額

内譯

金 百四圓七拾錢

十三年度末現在

金 参拾錢

十四年度剩餘金ヨリ積立

右ノ通り報告候也

昭和十五年一月十日

朝里第二青年団々長

（辞任挨拶状）

拝啓 厳寒の候高堂愈々御多祥の段奉大賀候

陳者朝里第二青年團創立以來滿三年を徑過し其の間不肖團長の任にありと雖も何等爲す事なく汗顔忸怩たるもの有之候へ共幸ひに逐年向上しつつあるは是偏へに各位の絶大なる御支援の賜と深く感謝の意を表する次第に御座候

然るに今回不肖の任期滿了を以て過般の總會に於て其の後任者として青年に最も理解ある新進布施邦彦氏を推薦仕り候処満場一致同氏の選任を可決、御承諾を得候に付ては同氏御統帥の下に將來の發展を十分期待致され候も特に各位の御後援は不肖に倍旧して相仰ぎ度茲に退團に當り御禮を兼ね御願込如斯御座候

昭和十五年一月二十八日

小林 廣

（新任挨拶状）

拜啓向寒の砌り愈々御清栄の段奉賀候

陳者小生今度其器に遠ざかる實に甚しき者ながら朝里第二青年團長として就任致す事に相成申候

何分にも前團長小林廣氏の御事績の大なる又思慮周密事を慮する段實に無比の名團長の後を受けて實に此れに超したる重荷とて無之布施の野郎も相當の心臓者と被候事乍ら各位の御指示を期待此の任に就き申候

小生の人と成りに就きては御承知の通り若き青年の上となる如き者に無之至ってツボラ面して愚鈍の方にて實に此の役柄と縁遠き者に有之候結局人材の見付かる迄の臨時團長として何分の御指導の程願上候右就任御挨拶旁々御願込如此に候也

朝里村十一

布施邦彦

原文は和文タイプ、日東ゴム工業所の便箋使用、「小樽市潮見台町八番地、電話二三一二番、電略（二）又は（ニト）」とある

昭和十一年十二月

# 歳末夜警日誌

朝里第二青年團

註 この歳末警戒が行われたのは以下の理由による。前章、昭和十一年の青年団活動記録によると「十一月二十六日西尾駐在巡查ハ不慮ノ公傷ニテ入院治療セシ爲メ、村内ノ治安維持上十二月一日夜ヨリ大晦日ニ至ル迄本團員總出勤ヲ爲シ、之ヲ七班ニ分ケ交互ニ歳末夜警ノ任ニ就キ二十五日夜ヨリハ徹夜警戒トセリ。此ノ出勤人員三十一名延一二三名トス」とある。日誌は複数の人たちの記録であるため、記述、用字、用語の不統一が見られるが、明らかな誤字以外はそのまま記載した。



青年團員夜警日割

日曜		出動團員		○印八班長	
一日	火	○小松 實	平井敏太郎	本間富雄	田付幸吉
二日	水	○福士 武夫	竹内武信	原田清松	久家守雄
三日	木	○小林 廣	永山友作	附家六郎	
四日	金	○後藤明夫	後藤茂雄	筒井富作	渡辺厚藏
五日	土	○村上米作	上林哲夫	渡辺廣行	田中 啓
六日	日	○山口悦郎	村上健藏	大友喜一	村上健次郎
七日	月	○北田辰治	永山喜三夫	高橋喜久男	德光 拓
八日	火	小松 實	田付幸吉	本間富雄	平井敏太郎
九日	水	福士 武夫	原田清松	竹内武信	久家守雄
十日	木	小林 廣	永山友作	附家六郎	
十一日	金	後藤明夫	後藤茂雄	筒井富作	渡辺厚藏
十二日	土	村上米作	上林哲夫	渡辺廣行	田中 啓
十三日	日	山口悦郎	大友喜一	村上健次郎	村上健藏
十四日	月	北田辰治	永山喜三夫	高橋喜久男	德光 拓
十五日	火	小松 實	本間富雄	竹内武信	
十六日	水	福士 武夫	田付幸吉	原田清松	久家守雄
十七日	木	小林 廣			
十八日	金	後藤明夫	後藤明次郎	後藤茂雄	後藤富雄
		渡辺厚藏			筒井富作

十九日	土	村上米作
二十日	日	山口悦郎
二十一日	月	北田辰治
二十二日	火	小松 實
二十三日	水	福士武夫
二十四日	木	小林 廣
二十五日	金	村上米作
二十六日	土	後藤明夫
二十七日	日	山口悦郎
二十八日	月	北田辰治
二十九日	火	小松 実
三十日	水	福士武夫
三十一日	木	小林 廣

大友喜一	村上健三	附家六郎
平井	高橋喜久男	德光 拓
神田	本間	上林 附家
山口	原田	久家
永山友	原田	竹内 大友 平井

## 夜警員心得

一、夜警員午後八時迄ニ詰所ニ集合ノコト  
二、夜警ハ詰所ヲ出テ梶里沢、國道筋、荒浜、本村ノ順ニテ二回、神威古潭一回巡警ノコト  
三、巡警ハ各戸ノ周圍、小路等ニ注意シ煙筒其他ノ火氣ヲ特ニ注意シ無言ニテ密行スルコト  
四、巡警ニハ細引、呼子、燈火等ヲ携行スルコト 但シ密行中ハ可成點燈セザルコト  
五、終列車到着ノ際駅待合所ニ於テ降車人ニ注意シ怪シキ者ノ降車ヲ警戒スルコト  
六、詰所ノ火氣ハ班長特ニ注意スルコト  
七、巡警當夜ノ出来事ハ細大共本日記帳ニ記入シ翌日ノ當番者ニ引継グコト

八、可成線路ヲ通行セザルコト  
九、詰所ノ石炭ハ当番ノ者少量宛持参ノコト

十二月一日 火曜 雨

当番 小松 實 平井敏太郎 田付幸吉 本間富雄

# 記事

八時集合 八時半出發

榎里沢ヨリ國道ヲ經 荒浜、本村ノ順ニテ詰所ニ歸ル 時二九時半 直ニ神威古潭ニ出發ス トンネル  
迄 途中後藤宅ヲ訪ネタルモ寢床中、異狀ナシ 十時四十分詰所ニ歸ル

註 朝里のカムイコタンは「神威古潭」。公図にもある。昔から一般の人は「カムイ」と呼ぶ人もいたようである。  
「威」は人を恐れさせるの意。旭川のカムイコタンは「神居古潭」と表記されている「潭」は水を深くたたえた  
所の意。

十二月二日 水曜 雨

当番 福士武夫 原田清松 竹内武信 久家守雄

# 記事

七時半集合 八時十分出發

神威古潭ニ行ツテ来テトンネル口迄 直チニ榎里沢ヨリ國道ヲ經テ荒浜ヲ巡警シ本村、本村山ノ上ノヲ  
終ツテ詰所ニ歸ル 時二十時十分、十一時ノ終列車後直チニ巡警異狀ナシ 十二時巡警終ツテ解散  
神威古潭巡警ノ時後藤宅ニヨリ四日ノ當番打合セ済ム

十二月三日 木曜 雪

当番 小林 廣 附家六郎 永山友作  
記事

午後八時半出發 神威古潭 十時半帰着  
十一時ノ終列車ノ降車人ヲ檢シ 十一時半出發 本村一周 降雪三寸、尚盛シニ降雪、人通りハ國道筋  
ニ一人モナシ 團員徳光拓君小樽ヨリ徒歩帰ルノト荒浜ニテ會ス 十二時半帰着村内一般ニ異常ナシ

十二月四日 金曜 雪

当番 後藤明夫 後藤茂雄 筒井富作 後藤明次郎 渡辺厚藏 後藤定雄

記事

午後六時三十分一同詰所集合（同刻盛んに降雪） 午後八時三十分出發 枉里沢より國道を経て荒浜に  
至る 引返し本村、本村山ノ上を繼て詰所に歸る 時に午後九時二十分（同刻降雪なし）  
午後十一時終列車の降車人を檢し同十一時二十分出發 右コースにて巡警 詰所に歸る 午後十二時  
十五分 全区異狀なし（同刻降雪あり） 午後十二時張碓トシネル西口迄警戒 異狀認めず  
同十二時三十分一同解散

十二月五日 晴又雪（土曜日）

当番 村上米作 竹内武直 上林哲夫 村上健次郎

記事

八時二十分神威古潭へ出發 此の時盛んに降雪し多るも途中にて晴る 九時半帰着 十時十分枉里澤

より國道へあがり十字街より本村山の上を経て詰所へ帰る 終列車の降車人を検し十一時三十分再び  
柎里澤をあがり國道を経て荒浜に至り引き返して 本村山ノ上を巡警し詰所へ帰り十二時四十分解散  
時に降雪ナシ

拾貳月六日 晴後雪 日曜日

當番 村上健三 渡辺弘幸 山口悦郎

### 記事

午後七時半集合 全八時半所定の順路に出発、途中異狀なく十時帰着  
拾壹時壹分下り終列車降客點檢后拾壹時半 予定通り巡回終了 拾貳時半解散寿

十二月七日 月曜日 北西の風 吹雪

當番 北田辰治 永山喜三夫 徳光 拓 高橋喜久男  
徳光 拓 高橋喜久男二名 欠席

### 記事

集合八時 出發八時四十五分

巡視 本村荒浜國道通過 柎里沢ヨリ詰所へ歸着 九時五十五分 途中カーテンノ無イ家十数戸有リ

降車警戒 異狀ヲ認メズ

第二回巡視 柎里沢ヨリ國道迄 荒浜ヲ經テ本村ヲ經 神威古潭ヲ經 張碓墜道ニ至ル 十一時

十一時四十五分詰所歸着

十二時二十分巡視終了 各々歸宅

十二月八日 火曜日 晴 ○、二（意味不明、気温か）

小樽署巡查部長佐藤五市郎 巡察ノ爲来訪 團長停車場ニテ会フ  
当番 小松 田付 本間  
七時四十分集合 八時十五分出發 柁里澤國道荒浜本村を經カムイコタンに至る 十時十五分詰所  
に歸る 十一時二十分詰所を出發 所定の順路ニヨリ詰所ニ歸る 十二時十分 異狀ナシ

拾貳月九日 水曜日 晴

當番 福士武夫 原田清松 竹内武信 久家守雄

午後七時 詰所へ集合 午後八時半出發 所定ノ順路ニテ途中異狀ナク十時四十五分歸着  
下り終列車降客點檢后予定ノ巡警ヲ終り十二時半解散寿

十二月十日 木曜 良夜

當番 小林 廣 永山友作 附家六郎

午後九時十分神威力古潭へ出發 全十時半詰所へ帰着 十一時十分出發本村一周 十二時帰着 村内  
一般異狀ナシ

十二月十一日 金曜日 晴

當番 後藤明夫 筒井富作 後藤明次郎 渡辺厚藏 後藤定雄

記事

午後七時三十分集合 八時三十分詰所出發 本村一回巡警 午後九時三十分歸着  
下り終列車ノ降車人ヲ檢シタルモ異狀ナク二回目出發 沢ヲ上り國道沿線辻商店附近雪中ニ倒レ居ル  
鐵道官舎内某氏ヲ認メ一同協力自宅ニ送ル 氏ハ飲酒後倒レタルモノノ如ク左耳ニ極少負傷シ居タル  
モ大シタ事ナシ 引返シ村内巡警シ午後十二時十分詰所ヘカヘル 上り終列車ヲ檢シタルモ降客一人  
別ニ異狀ナシ 同刻神威古潭方面出發 張碓トンネル西口ニテ一同解散ス 時二〇時四十分

十二月十二日 土曜日 晴

當番 村上米作 高橋喜久男

八時詰所ヘ集合 八時三十分神威古潭ヘ出發 十時歸着 終列車降車人ヲ檢シ 十一時半本村所定ノ  
順路ニテ巡警 途中異狀ナシ 解散〇時三十分 村内異狀ナシ

拾貳月拾參日 日曜日 曇

當番 山口悦郎 渡辺弘幸 村上健三 以上三氏

七時半參集 八時拾分神威古潭ヘ向け出發 拾時歸着途中異狀なし 下り拾時並びに上り拾時の兩列  
車ノ降車客を檢し後拾壹時下り終列車も前同様点檢し同刻直ちに本村方面巡警に出發 途中何ら事  
故なく拾貳時詰所に歸着直ちに解散 以上

十二月十四日 月曜日 晴後雪後晴

当番 北田辰治 徳光 拓 永山喜三夫 高橋喜久男 四名全員出席

集合 八時

巡視 八時三十分神威古潭へ出発 九時半歸着 十時柙里沢ヲ經由荒浜本村 詰所へ歸着

十時四十分(三名ニテ)降車客点検 留守居番一名 各列車点検 以上各異状ヲ認メズ  
散解 十二時詰所出發 荒浜ニテ散解

十二月十五日 (火) 良夜

当番 小松班長二代リ 小林 廣 福士武夫 本間富雄

午後九時半出發神威古潭 十時五十分帰着異状ナシ

全十一時三十分出發 沢ヨリ國道筋巡回 學校前ニテ自動車ニテ山ノ上青年團員四名小樽ヨリ歸村  
ヲ認ム 荒浜ニテ見知ラヌ男小樽方面ヨリ来レルヲ以テ福士君ヲシテ追ワシメ是ヲ確メシ所高島ヨ  
リ来リシ 者ニテ仁印原田方へ赴ク者ニシテ別段怪シキ者ナラザルコトヲ認メタリ

役場入口ノ戸一尺バカリ開キアルヲ見、入リテ当直室ニ就寝中ノ新谷久作君ヲ起シ屋内異状ナキヤヲ  
確カメ戸締ヲ爲サシメタリ 其他異状ナク十二時半解散

十二月十六日 (水) 曇

当番 永山友作 久家守雄 原田清松 竹内武信

七時二十分集合 八時二十分出發 神威古潭に向ふ 異状無く九時四十分歸着 十時より沢、荒浜巡回  
十時四十五分着 十一時半より本村巡回(荒浜、澤) 異状無し 十二時半解散



拾貳月拾七日

当番 平井 津田 小松 附家 田付

特電（遠藤巡查）ニ依り非常手配ス（九時四十分） 熊碓届送

神威古潭 異狀無し

澤 本村（國道筋）

荒浜 〃 〃

壹時 警戒解ク

追記 午前十二時半頃役場前にて怪しき者に出合ひ之を誰何したりしが村民（渡辺氏 本人自稱）であつた。

十二月十八日 金曜日 雨

午後六時四拾分一同集合

当番 後藤明夫 後藤茂雄 後藤定雄 筒井富作 後藤明次郎 渡辺厚蔵

八時二十分第一回目巡警 異狀ナシ 終列車通過後第二回目出發

〇時詰所に帰る 全区異狀ナシ

上り〇時終列車ヲ檢シ神威古潭方面江張碓西口トシネルニテ一同解散〇時三〇分 平井 小堀 高橋 等三君 應援ニ来るも巡警ニ加ハラズ

詰所ニ集合の折内部ハ乱雜ニテ驚ク 第二青年團團員トシテ今少シ自重して誰が見テモ見苦シカラヌ様 内部は好く片付ケマセウ 〇時十分

十二月十九日 土曜日 晴

当番 村上 永山

八時半より神威古潭へ巡警出發 九時四十分帰着 休息中 九時五十分に至りて永山頭痛を發し帰宅  
此の時詰所に居合せし 竹内武信、小堀兩人を直ちに当番に割当、終列車降客を檢し所定の順路にて巡警  
十二時解散 村内異狀ナシ  
十二月式拾日 日曜日 晴

当番 山口悦郎 村上健三 渡辺弘幸 三名

正八時參集 八時拾分神威古潭へ向ヶ出發ス 途中異狀ナク九時帰着 直チニ澤及ビ金谷町巡回後九  
時四十分詰所ニ帰ル 拾時前後兩列車及ビ拾壺時下リ終列車点檢シ直チニ荒浜ニ向ヶ出發 例ノ順路ニ  
テ巡回シ 拾二時十分帰着 途中何ラ異狀ナシ 十二時二十分解散ス  
竹内武信及ビ原田清松兩君應援ニ出動 兩君ニ敬意ヲ表ス  
追々歳末モ切迫ノ事故宜シク各員ノ奮起ヲ要望シテ止マザル次第ナリ

以上

註 金谷町におそらくは金谷宅付近か

拾貳月貳拾壺日 晴

当番 永山(弟) 高橋久喜男 平井敏太郎

午後八時參集  
午後八時半第一巡回 九時十分帰着 途中異狀なし その後直ちに神居古潭に向つて出發 十時四  
十分歸着 途中異狀なし 十一時十分第二回目巡回 十二時歸着 途中異狀なし

拾貳月貳拾貳日 良夜 火曜日

小松班長二代ワリ

當番班長 福士武夫 平井敏太郎 津田哲夫 本間宣夫 上林哲夫 五名

午後七時半集合

午後八時半出発 所定順路ニテ途中異狀ナク十時五十分歸着  
下り終列車降客ヲ点検 予定ノ巡警ヲ終り十二時半解散ス

當日ノ當番班長小松君ニ替り福士巡警スルモ十二時頃役場ヨリ歸宅ノ赤塚氏ト行合ツタ

以上

十二月二十三日 (水曜) 晴

當番 竹内 久家 大友 平井 永山(兄) 原田

午後七時半集合

午後八時二十分第一回本村巡回 八時五十五分歸着 途中異狀なし  
午後九時神威古潭に向ふ 午後十時二十分歸着 異狀なし

(十二月二十四日の記載、原本に無し)

十二月二十五日 晴 金曜日

當番 村上 竹内 渡辺

七時半集合

八時半神居古潭へ出発 十時歸着

十一時の降客を検し十一時半澤をあがりて荒浜を一週 十二時帰着  
壱時半より再び所定の順路ルテ巡警ス 解散二時半

十式月廿六日 土曜日 快晴

当番 後藤明夫 後藤明次郎 以上二名

七時三十分詰所江集合 八時四十分第一回出發 豫定之コースニテ巡警

月ハ冲天ニ輝キテ天氣快晴ナレ共 日本海ヨリ吹来ル風一入身ニシミテ冷タシ サレド我朝里村民之生命財産保護之大任之一端ニ任ズルヲ思ヘバ益々責任之重ニシテ且大ナルヲ感ジ身内ニ血沸ク之感アリ  
九時三十分詰所ニ歸ル

下リ最終列車之乗降人ヲ點檢ス 異狀ナシ 降車人十二名 内二名團員

拾貳一時十五分第二回目警戒ニ詰所出發 全区異狀ナシ 唯山口林次郎氏方飼犬ハ危險ナレバ警備員諸氏御注意ヲ乞フ 〇時詰所ニ歸リ上リ終列車ヲ點檢ス 異狀ナシ 一時三十分第三回目出發 全区警戒異狀ヲ認メズ 貳時貳拾分神威古潭方面江向フ 後藤助次郎渡辺仁太吉両家餅ツキノ最中ナリ 張碓ト  
ンネル西口ニテ解散ス 時二三時拾分

本日小生等二名外ハ全部都合悪シク出動出来得ヅ サレド憶フニ二名ニテハ多少心細ク不安ナルハア  
ナガチ小生等ガ臆病ナルガ故ニ非ズ 警備ニ未經驗ナル我々トシテハ 万一ヲ豫想シテ少ク共三人以上  
必要ナラン 況ヤ廿五日ヨリ徹宵警戒トナリ最モ事件多キ年ノ暮ヲ目前ニ控ヘタル今日ニ於テヲヤ  
我々團員ハヨク第二青年團ノ使命ヲ全フセンガ爲ニ万障繰合セ出動警戒ニ当ラン 以上

拾貳月貳拾七日 日曜日 晴天

当番 山口悦郎 附家六郎 村上健三 大友喜一 以上四氏

毎度巡警通り執行シ式時十五分解散ス

村内特記スベキ異狀ナシ 本日八時何分カノ列車ニテ遠藤巡查来訪アリタシ(ママ)

十二月廿日 水曜日 晴 ○印 班長

当番 ○福士武夫 竹内武信 久家守雄 原田清松

○村上米作 田付幸吉 本間富雄 大友喜一

午后七時集合 八時半神威古潭へ向ヒ巡警 終ツテ

福士組 十時詰所へ歸着 十時ノ下リ列車ヲ檢ス 福士組一回目異狀ナシ

村上組 十時十分沢、國道、荒浜、本村ノ順ニテ巡警ス 又異狀ナシ 村上組一回目

福士組 十一時ノ下リ終列車ヲ檢シ福士組本村、荒浜、國道、沢ノ順ニテ巡警ス 福士組二回目異狀ナシ

シ

村上組 十二時 本村、荒浜、國道、沢ノ順ニテ巡警ス 村上組異狀ナシ

福士組 午前一時 沢、國道、荒浜、本村ノ順ニテ巡警ス 福士組異狀ナシ

村上組 二時本村、荒浜、國道、沢ノ順ニテ巡警シ三時詰所へ歸着ス

朝六時異狀ナク解散ス 以上

十二月三十一日 (木) 良夜

当番 小林 廣 平井敏太郎 山口悦郎 小松 實 渡辺廣行

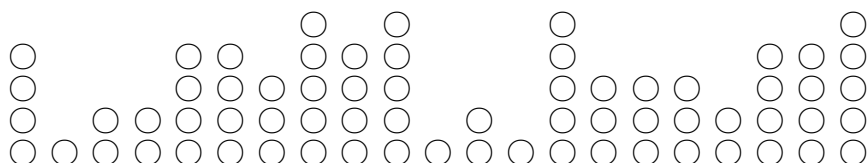
第一回 午後十時迄巡回  
 小松實君終列車ニテ来リ夜警ニ参加ス  
 十二時十二分札幌神社参拝列車ヲ送り午後一時出發シテ村内一周

夜警勤務表

参加日數									
4	5	6	8	6	5	5	4	8	5
			○					○	
			○					○	
		○	○	○				○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
附家六郎	小林廣	久家守雄	竹内武信	原田清松	福士武夫	本間富雄	田付幸吉	平井敏太郎	小松實

一一三

4 1 2 2 4 4 3 5 4 5 1 2 1 5 3 3 3 2 4 4 5

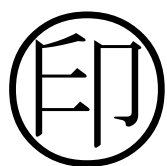


三十一名

大友喜一  
小堀  
津田義夫  
徳光 拓  
高橋喜久男  
永山喜三夫  
北田辰治  
渡辺弘幸  
村上健三  
山口悦郎  
村上健次郎  
上林哲夫  
竹内武直  
村上末作  
渡辺厚蔵  
筒井富作  
後藤定雄  
後藤繁夫  
後藤明次郎  
後藤明夫  
永山友作

朝里第二女子青年團

團長





朝里女子青年團第二分團々則 (昭和十一年十月二十三日、朝里第二女子青年團と改名)

第一條

本團ハ朝里女子青年團第二分團ト稱シ事務所ヲ朝里村大字朝里村二十三番地ニ置ク

第二條

本團ノ區域ハ朝里村大字朝里村(字山ノ上ヲ除ク)ノ區域トス

第三條

本團ノ目的トハ左ノ通りトス

第四條

- 一、忠孝ノ本義ヲ体シ婦德ヲ涵養ス
  - 二、實生活ニ適切ナル智能ヲ練磨シ勤儉質素ノ風ヲ興ス
  - 三、体育ヲ重シ健康ノ増進ヲ期ス
  - 四、情操ヲ陶冶シ趣味ノ向上ヲ圖ル
  - 五、公共的精神ヲ養ヒ社會ノ福祉ニ寄與ス
- 本團ニ左ノ役員ヲ置ク

一、分團長 一名

二、副分團長 一名

三、幹事 若干名 (内一名ヲ長トス)

分團長ハ本團ヲ代表統理ス

副分團長ハ分團長ヲ補佐シ分團長事故アル時ハ之ヲ代理ス

幹事ハ分團長ノ命ヲ受ケ團務ヲ處理ス

役員ハ團員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任シ任期ハ三年トス 但シ任期ノ滿了後ト雖モ後任者ノ

決定迄ハ仍在任スルモノトス

補欠選任ニ依ル役員ハ前任者ノ任期ヲ承継ス

第五條

本團ノ團員ヲ分チテ左ノ三種トス

一、正團員 正團員ハ十四才ヨリ二十七才迄ノ女子トス

二、贊助團員 贊助團員ハ正團員ヲ超エタル者及本團ノ趣旨ヲ賛成シタル者トス

三、名譽團員 名譽團員ハ本團ニ對シ特別功勞アリト認メ總會ノ推舉ヲ經タル者トス

團員ハ總テ本團區域内ニ現住スル者ニシテ入團シタルモノニ限ルモノトス 但シ本團區

域外ノ者ニシテ入團希望ノ者アルトキハ役員會ノ決議ヲ經テ之ヲ入團セシムルコトアルベシ

第六條

本團ニ顧問ヲ置クコトヲ得 顧問ハ總會ノ推薦ニ依ルモノトス

第七條

定期總會ハ毎年一月之ヲ開キ前年度ノ團務ノ報告並当年度事業ニ関スル事項ヲ附議ス  
臨時總會ハ役員會ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ開ク

第八條

總會ノ決議ハ出席團員ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス

本團ハ毎年度剩餘金ノ二分ノ一以上ヲ基金トシテ積立ツルモノトス

第九條

基金ハ總會ノ決議ヲ經ルニ非サレバ之ヲ支出スルコトヲ得ズ

本團員ハ本團ノ維持發展ノ爲左ノ團費ヲ納付スルモノトス  
但シ特別ノ事情アル者ニ對シテハ役員會ノ決議ヲ經テ之ヲ免除又ハ減額若ハ延納セシムルコトヲ得

一、正團員 一月 拾錢

二、贊助團員 一年 五拾錢

以上

名譽團員ハ團費ヲ要セザルモノトス

第十條

正團員ニ對シ總會ノ決議ヲ經テ臨時ニ團費ヲ徵收スルコトアルベシ

本團員團員タルノ体面ヲ汚シ且ツ本團ノ名譽ヲ毀損スルノ行爲アリト認ムルトキハ總會ノ決議ニ依リ除名スルコトアルベシ 除名セラレタル者ニシテ改悛ノ情顯著ナルトキハ總會ノ決議ヲ經再ビ入團セシムルコトヲ得

本團員ハ本團則ノ外總會ノ決議ヲ經別ニ定ムル細則ニ從フモノトス

第十一條

本團則ハ總會ニ於テ正團員三分ノ二以上出席シ其ノ過半数ノ賛成アルニ非ザレバ之ヲ變更スルコトヲ得ズ

第十二條

## 朝里第二女子青年團昭和十一年度事業行事並會計報告

### 一、事業及行事

#### 1 發團式舉行

九月二十七日午後七時ヨリ小樽郡漁業共同組合事務所樓上ニ於テ本團發團式ヲ舉行、團則ノ制定、役員ノ選任アリ 朝里村長代理仁科教育主任、館朝里小學校長、和田山ノ上区長ヨリ祝辭ヲ受ク尚津田朝里村長ハ式修了後臨マレ一場ノ訓示ヲ受ケタリ 當時本團名ヲ朝里女子青年團第二分團ト稱ス 当日選任セラレタル役員氏名左ノ通り

分團長 小林 廣

副分團長 福士武夫

幹事長 山口光子

幹事 久家トシ 福士美智 三津キク 中祢ミヨ 徳光ミキエ 牧田ひさ子

註 原文にはほとんどの女史名に「子」がついている。記録者小林廣は女子名に「子」をつける傾向があつた。ここでは後述の「武運長久の祈願書」に本人の自筆署名があり、是により訂正した。

#### 2 天皇陛下奉迎送

今秋本道ニ於テ舉行セラレタル陸軍特別大演習御統監及地方行幸ノ爲親シク聖駕ヲ迎ヘ本道民無上ノ光榮ニ感激ス 恰モ十月九日札幌ヨリ小樽ヘ行幸アラセラレタル陛下ノ御召列車ハ午前十時九分朝里駅御過アリ 本團員ハ村内所定ノ位置ニ於テ奉迎送申上ケタリ

#### 3 映画観賞會

札幌通信局保険課及朝里郵便局後援ニテ簡易保険局製作ニ係ル映画ノ観賞會ヲ十月二十一日夜本團事務所ニ於テ開催、保険思想普及上多大ノ効果ヲ収メタリ

#### 4 本團名變更

本團ノ主体タル朝里女子青年團ハ有名無實ノ状態ナルヲ以テ此ノ際分團ヲ昇格スルノ必要ヲ感ジ十月二十一日第一分團ト交渉シ團名變更ヲ協定、第一分團ヲ朝里第一女子青年團、本團ヲ朝里第二

女子青年團ト爲スコトナリ、本團ニ於テ十月二十三日臨時總會ヲ開キ團則變更ヲ決議、右ノ通リ團名ヲ變更セリ

### 議案

本團ヲ朝里第二女子青年團ト變更ニ付本團則中左ノ通り改ム

第一條中「朝里女子青年團第二分團」ヲ「朝里第二女子青年團」ニ改ム  
第四條中「分團長」「副分團長」ヲ「團長」「副團長」ニ改ム

昭和十一年十月二十三日 朝里女子青年團第二分團 分團長 小林 廣

### 5 規約貯金實行

本團員ノ貯金思想向上ノ爲メ朝里郵便局ト協力シ、「朝里第二女子青年團、行幸記念貯金組合」ヲ設ケ十月分ヨリ規約貯金ヲ開始セリ

### 6 行幸記念小公園設定

今秋ノ行幸記念ノ爲メ本團ニ於テハ小公園ヲ開設セントシ朝里村十九番地ノ一社地二百二十七坪ノ位置ハ本村ノ中央、村役場裏ノ高台ニシテ現在巡查駐在所ノ建物アリト雖モ故町田校長ノ頌德碑モアリテ建テアリ眺望絶佳ノ好適地ナルヲ以テ氏子總代ノ同意ヲ得、此處ヲ小公園ニ設定「行幸記念朝里小公園」ノ標杭ヲ建テタリ本公園設定ニ付テハ朝里第二青年團ト共同事業ナルヲ以テ就勞ハ總テ同團員ニ依頼シ同團員ハ十月二十五日出動シテ開設作業ヲ爲セリ

### 7 記念植樹並國旗柱建設

行幸記念事業ノ一トシテ植樹ヲ爲スコトシ左ノ通り小公園及村社朝里神社境内ニ記念植樹ス又、小公園内ニ永山友作氏寄贈ノ國旗柱（國旗共）ヲ建設ス 右二事業ハ朝里第二青年團ト共同ニシテ此ノ作業ハ總テ同團員ノ手ヲ借り十一月一日之ヲ實施セリ

獨逸トウヒ 五本 トド松 十本 楓 三本  
 青楓 五本 山櫻 五本 五葉松 三本

8 小公園開園式並國旗掲揚式舉行

十一月三日明治節ノ吉辰ヲトシ午前八時小公園開園式並大國旗掲揚式ヲ舉行、第二青年團員及ビ本團員、村有志、小學生徒等参列ス 小松村會議員ヨリ祝辞ヲ受ク

9 明治節拜賀式参列

從來朝里小學校ニ於ケル四大節拜賀式ニハ男女青年團員ノ参列ヲ見ザリシニ依リ本團ハ第二青年團ト共ニ率先シテ今後ノ拜賀式ニ参列スルコトトシ先ヅ第一ニ明治節拜賀式ニ参列セリ

10 團旗調製

本團及朝里第二青年團ニ於テハ協力一致其ノ使命ヲ全フスルノ第一方針トシテ團旗ヲ調製スルコトシ此ノ寄附金募集方ヲ本團役員ニ於テ引受ケ十月十五日ヨリ寄附募集ニ着手シタルトコロ意外ノ贊助ヲ受ケ總額百三十九円四十錢人員百四名ノ寄附ヲ得タリ、而シテ本村出身徳光忠夫氏ノ犠牲的援助ニ依リ團旗二旒ヲ金九十円ニテ東京向島笹川友仙工場ニ於テ調製セリ 其ノ團案ハ役員協議ノ上日章旗ニ赤梓ヲ入レ紫ノフレンジトセリ

11 團旗入魂式舉行

十一月二十二日ノ青年記念日ヲトシ本團並朝里第二青年團ノ團旗入魂式ヲ午後一時ヨリ朝里小學校ニ於テ舉行 両青年團員及村有志寄附者等多数参列、朝里神社々掌加藤熊次郎氏司式ノ下ニ嚴肅裡ニ終了 津田朝里村長、小松村議會議員、和田山ノ上区長、西尾駐在巡查ヨリ祝辞ヲ受ケ 参列者全員ニ紅白ノ饅頭、紅白ノ供物ヲ配付ス 式後團員ノ記念撮影ヲ爲セリ

12 除隊兵出迎

十月二十一日輜重兵特務兵前田武氏、十一月三十日歩兵岩野重次郎氏、同稗田政市氏、工兵花田次雄氏、十二月一日重砲兵落合勇氏除隊歸村ニ付團員ハ朝里駅ニ出迎へ尚朝里神社前ニ於ケル除隊奉告式ニ参列セリ

## 二、會計決算

### 収入

一金 十九円三十一銭 収入總額

### 内譯

金 一円六十一銭 以前ノ團ヨリ引継  
 金 五円二十銭 團旗調製費剰余金割当  
 金 三円也 雜收入  
 金 一円六十銭 臨時團費二十六名分  
 金 七円九十銭 團費延七十九名分

### 支出

一金 参円也 支出總額

### 内譯

金 一円五十銭 行幸記念植樹苗木代  
 金 一円五十銭 發團式電燈料

### 収支差引

一金 十六円三十銭也 決算剰余金

剰余金処分方法

一金 八円十六錢也  
一金 八円十五錢也

團則第八條ニ基キ基金トシテ積立  
昭和十二年度へ繰越

右報告ス

昭和十二年一月三日

朝里第二女子青年團々長

小林 廣

朝里第二女子青年團昭和十二年度事業及行事並會計報告

1 事業及行事

一、定期總會

一月三日開催、諸般ノ報告、事業ノ協議及ビ左ノ顧問ヲ推戴ス

朝里村長津田運吉氏、同夫人津田歌子氏、朝里小學校長館豊寿氏、同夫人館ミサ子氏、  
佐藤藤吉氏、同夫人佐藤チマ氏、朝里郵便局長小松市郎氏、同夫人小松ハツ氏、朝里駅長三浦虎  
之助氏、同夫人三浦マツ氏

二、入營兵歓送

一月九日本村ヨリ歩兵渡辺松雄、同水間薫、工兵大谷利勝、三氏入營ニ付團員朝里駅ニ歓送ス

三、朝里村聯合男女青年團總會

一月二十九日朝里村聯合青年團總會ヲ村役場ニ開催、本團ヨリ十五名出席ス

四、料理研究會

二月十一日紀元節ヲトシ料理研究會開催、團員持寄ノ研究發表アリ

- 五、入營兵歡送  
二月二十日關東軍二本村ヨリ能登勇氏入營、馱ニ團員歡送
- 六、團員送別  
二月二十一日日本團幹事久家トシ氏岩内ニ轉住ニ付送別會ヲ開キ記念品ヲ贈呈ス
- 七、針供養開催  
三月六日本團主唱、第一女子青年團ノ賛意ヲ得共催ニテ第一回針供養ヲ量德寺朝里說教所ニテ開催  
参列者百数十名
- 八、館顧問死亡  
三月十三日本團顧問館豐寿氏死亡、十五日ノ葬儀ニ團員多數會葬、本團ヨリ花輪及弔詞ヲ呈シタリ
- 九、團員送別  
三月十六日正團員平井トキ、平井キミ氏ノ兩名室蘭ヘ轉任ニ付送別會ヲ催シ記念品ヲ呈シタリ
- 一〇、全道青年團臨時大會  
七月二十五日時局認識全道青年團臨時大會ヲ札幌ニ開催、本團ヨリ山口光子、福士美智ノ兩名出席ス
- 一一、朝里聯合青年團大會  
七月二十八日朝里村男女聯合青年團時局臨時大會ヲ村役場ニ開催、本團ヨリ十一名出席ス
- 一二、出征兵歡送  
七月二十七日第一回動員下令、本村ヨリ田付幸吉、村上健次郎、播摩與志松ノ三氏出征、八月一日、二日出發、團員多數、馱ニテ歡送ス
- 一三、國防献金募集  
八月四日ヨリ一週間國防献金募集ニ出動、(第一女子青年團、愛國國防婦人會共同) 大字朝里村ヨリ約六十円ヲ募集献金ス
- 一四、講演會  
九月二十六日時局講演會ヲ男子青年團、在郷軍人分會ト共催ニテ村役場ニ開ク、講師ニ道議佐藤一雄氏ヲ招聘、聴衆二百餘名



一五 御親閲記念大會

十月三日御親閲記念朝里村聯合男女青年團大會ヲ張碓小學校ニ於テ開催、本團ヨリ正團員三名贊助團員二名参加ス

十六 南京陷落祝賀

十二月十二日南京陷落祝賀ノ旗行列、提灯行列ニ参加ス  
右ノ外下記ノ通り

出征兵歡送、出征兵家族慰問、慰問金募集、慰問袋發送、四大節拜賀式參列、記念小公園手入等、実施、但愛國、國防兩婦人會ト共同ニテ出征兵、同家族ニ対スル分ヲ行ヒタリ

2 會計報告

収入

一金 参拾九圓四拾五錢也

収入總額

内譯

金 貳拾五圓九拾錢

金 八圓拾五錢

金 五圓四拾錢

團費徵収額

前年度ヨリ繰越金

雜收入

支出

一金 拾八圓六拾壹錢也

支出總額

内譯

金	參圓貳拾錢	朝里村聯合女子青年團負擔金
金	五圓也	會合諸費
金	貳圓五拾六錢	針供養費
金	壹圓六拾壹錢	料理研究費
金	六圓貳拾四錢	諸雜費

収支差引

金	貳拾圓八拾四錢也	剩餘金
---	----------	-----

剩餘金處分

一金	拾圓四拾貳錢也	基金へ積立
一金	拾圓四拾貳錢也	翌年度へ繰越

資産報告

一金	八圓拾六錢也	昭和十一年度積立基金
一金	拾圓四拾貳錢	昭和十二年度積立基金

合計	金	拾八圓五拾八錢也
----	---	----------

團員現在數

正團員

十九名

賛助團員

七名

顧問

八名

昭和十三年一月一日現在

右報告ス

昭和十三年一月九日

朝里第二女子青年團々長

小林 廣

朝里第二女子青年團昭和十三年度事業並行事報告

(創立第三年)

- 一 武運長久祈願  
一月元旦、札幌神社初詣ニ小林團長、福士副團長ハ本團ヲ代表シ、皇軍勇士ノ武運長久祈願ノ爲  
参拜セリ
- 二 定期總會  
一月九日午前十時開會、村長代理仁科上席書記ヨリ訓示アリ、顧問津田歌子、佐藤チマ両氏臨席  
ス、新顧問ニ朝里小學校長秋元元太郎氏並同静江夫人ヲ推舉セリ
- 三 傷病兵慰問  
二月八日郷土出身今義春上等兵ハ、客年十月二十四日忻口鎮ノ戰鬪ニ於テ戰傷十二月三十日原隊ニ  
歸還、旭川陸軍病院ニテ治療中ニ付キ本日小林團長親シク之ヲ慰問セリ
- 四 第二回針供養  
二月八日、第一女子青年團共催ノ第二回針供養ヲ本願寺朝里説教所ニ於テ舉行、参詣者七十餘名、  
式後河崎一英師ノ精神講話アリ
- 五 軍人家族慰安會  
三月六日朝里小學校、全青年學校、朝里第一、同第一女子、全第二各青年團共催ニテ朝里小學校ニ  
於テ開催、午後五時ヨリ出征軍人家族慰安會ヲ開催ス、觀衆六百餘名、未曾有ノ盛況ヲ呈シ午後十  
一時閉會ス
- 六 御名代宮奉迎  
皇后陛下御名代宮賀陽宮殿下傷病兵慰問ノ爲メ御來道、五月十二日、全十七日朝里駅御通過ノ際團  
員多數奉迎送セリ
- 七 料理研究會  
三月十三日團員ノ料理研究會ヲ催ス
- 八 徐州陷落祝賀  
五月二十日徐州陷落ニ付全月二十五日旗行列、提灯行列ヲ催ス、本團員多數参加セリ

九 事変一周年記念

七月七日、事変一周年記念日ニ付朝里村主催ニテ朝里神社ニ於テ儀式舉行、小林團長参列ス

十 廢品献納

七月七日、事変一周年記念一戸一品廢品献納運動ニ参加、他團員及小學生ト共ニ鉄屑ノ蒐集ヲ爲ス  
流燈會開催

八月十七日第二青年團ト共催ニテ朝里駅前浜ニ於テ本村出身戦將兵慰靈ノ爲、流燈會ヲ催ス

朝里村空前ノ催ニシテ頗ル美觀盛況ヲ呈セリ

一二、 村葬参列

八月二十九日朝里小學校ニ於テ故奥山曹長竝熊碓村出身戦死者故佐々木藤吉郎上等兵ノ合同村葬ヲ催ス、本團ヨリ奥山家ニ対シ花輪ヲ贈呈シ且、數度通夜ニ参詣、本通夜ニ際シテハ團員手傳ニ参加等爲シタル外、村葬ニ当リテハ四カ村ノ女子青年團ヲ代表シテ弔詞ヲ呈シ幹事長山口光子君之ヲ朗讀セリ

一三、 村葬参列

九月二十五日錢函小學校ニ於テ錢函出身戦死者故須藤專一君ノ村葬ヲ舉行、本團ヲ代表シテ小林團長参列セリ

一四、 漢口陷落祝賀

十月二十一日廣東陷落、全月二十七日漢口、武昌、漢陽ヲ完全占領ニ付二十八日午後一時ヨリ旗行列、提灯行列ヲ催ス 本團員多數之ニ参加セリ

以上

右報告ス

昭和十四年一月 日

朝里第二女子青年團々長 小林 廣

朝里第二女子青年團昭和十三年度決算報告

收入

一金 参拾七圓八拾四錢也

收入總額

内譯

金 拾圓四拾貳錢  
金 貳拾圓八拾錢  
金 参圓五拾錢  
金 参円拾貳錢

前年度繰越金  
團費  
寄附金  
雜收入

支出

一金 貳拾貳圓貳拾九錢也

支出總額

内譯

金 参圓六拾六錢  
金 壹圓九拾錢  
金 参圓也  
金 貳圓也  
金 壹圓四拾参錢  
金 五圓七拾錢  
金 参圓八拾錢  
金 八拾錢

針供養費  
料理研究費  
戰傷死者弔問費  
總會費  
出征家族慰安費  
見舞及送別費  
備品費  
雜費

差引金 拾五圓五拾五錢也

決算剰余金

剰餘金処分書

一金 拾五圓五拾五錢也 決算剰餘金

此ノ処分

金 八圓也 基金へ積立

金 七圓五拾五錢 翌年度へ繰越

資産調書

一金 貳拾六圓五拾八錢也 總額

内譯

金 拾八圓五拾八錢

前年度末現在

金 八圓也 本年度積立

昭和十四年一月一日現在團員數

正團員 十八名

賛助團員 七名

顧問 十名

右報告ス

昭和十四年一月 日

朝里第二女子青年團々長 小林 廣

男子女子  
各團員にお願いします

團長より

朝里第二青年團員で軍務に服し第一線で活躍せられ或は原隊に在って待機中の者左の通りであります。何卒一ヶ月に一本宛でもお便りを差上げてその労を犒ってやって下さい。勇士は諸君よりのお便りを待望して居ります。

後藤明夫 君	南支派遣軍田中忠部隊氣付市村部隊本部
竹内武尚 君	南支派遣軍杉本部隊氣付飯島部隊第二分隊第二班山口縣四五号船内
田付幸吉 君	中支派遣東部隊森竜部隊前川部隊
村上健次郎 君	北支派遣軍第二百二十野戰郵便局氣付伊藤部隊第一分隊第三班
後藤茂夫 君	滿州齊々哈爾須見部隊小林隊
村上健三 君	大日本第十驅逐隊晚第一分隊第三班
渡辺廣行 君	大日本軍艦利根第十分隊
後藤明次郎 君	旭川栗屋部隊桑原隊
永山喜三夫 君	旭川栗屋部隊栗原隊

昭和十四年二月一日現在



慰安文面

貴下の武運長久を  
祈り上げます

團印

小林 廣  
牧田ひさ子  
松浦静子  
北田君代  
金谷美保子  
高橋安子  
村上ナツ  
落合石子  
山口光子  
金谷栄子  
福士セツ  
三浦聰子

朝里第二女子青年團昭和十四年度決算報告

收入

一金 参拾参圓参拾五錢也      收入總額

内譯

金	七圓五拾五錢	前年度繰越金
金	六圓七拾錢	男子青年團ヨリ受入
金	壹圓貳拾錢	寄附金
金	貳圓六拾錢	第一女子青年團ヨリ受入
金	拾五圓参拾錢	團費

支出

一金 貳拾貳圓貳拾錢也      支出總額

内譯

金	壹圓五拾錢	總會雜費
金	五圓貳拾錢	針供養費
金	拾壹圓四拾錢	戰死者供物代
金	貳圓也	餞別
金	貳圓拾錢	退團者記念品諸費

差引

一金 拾壹圓拾五錢 決算剩餘金

剩餘金処分書

一金 拾壹圓拾五錢 剩餘金

此ノ処分

金 六圓也 基金へ積立  
金 五圓拾五錢 翌年度へ繰越

資産調書

一金 参拾貳圓五拾八錢也

内譯

金 貳拾六圓五拾八錢 前年度末現在  
金 六圓也 本年度積立

右報告ス

昭和十五年一月二十一日

朝里第二女子青年團々長 小林 廣

昭和十三年起

朝里青年學校後援會

評議員 小林

(朝里青年學校後援會設立の案内書)

拝啓

時下秋冷の候益々御清祥慶賀の事に存じま寿

さて當朝里青年學校は皆様の御声援御鞭撻によりまして逐年向上し本年の教練査閲に於てはその成績優良なりとの講評を受けましたがこれ偏に皆様の御力添によるものと厚く御禮申し上げます。

然しひるがへって考へて見ますと優良青年學校としては前途尚遠い感じが致しますばかりでなく時局柄一層充実強化する必要を痛感してゐるもので御座います。それには第一後援會の充実強化が先決問題の様な氣が致しますばかりでなくこの点軍當局よりも強く指示されて来てゐます事なので皆様の隔意ないご意見を拝聴しこの際一層後援會の充実を図り引いては青年學校の実績向上に邁進したい考で御座います。就きましては御多忙中誠に恐縮ですが明後二十五日午後七時より朝里小學校に於てその協議会を開きますから何卒御出席御願ひ申度此段御依頼申し上げます。

勿々

九月二十三日

朝里青年學校後援會長 (小松市郎)

小林 廣 殿

(朝里青年學校後援會設立の再度の案内書)

拝啓 前略御免下さい。

扱て先般青年學校後援會の事について親しく御意見を拝聴致し度御參會を御願ひ申し上げましたが、お集り下さった方は極く少数で協議を進める譯にも行きませんので残念ながら流會に致しました。然し青年の教育は時局の上からも将又将来健全なる朝里村の建設の上からも決して等閑に出来ない事なので此際是非共貴下の御參會を願つて御意見を拝聴させて頂き度いと存じまして来る九月三十日午後七時から朝里小學校で再び協議會を開く事に致しました。御多忙中で御座いませうが枉げて御出席下さいます様折入つて御願ひ致します寿。

匆々

九月二十八日

朝里青年學校後援會

殿

朝里青年學校後援會々則 (昭和十三年十月十七日)

第一條 本會ハ朝里青年學校後援會ト称シ事務所ヲ朝里青年學校ニ置ク

第二條 本會ハ青年學校ノ趣旨ノ普及徹底ヲ圖リ朝里青年學校ノ成績向上ニ努メ以テ健全ナル國民善良ナル朝里村民ノ育成ニ貢獻セントスル學校ノ諸活動ニ對シ援助ヲナスモノトス

第三條 本會ハ本會ノ趣旨ニ賛同スル有志竝ニ本校通學区域内ニ在住スル在郷軍人分會員ヲ以テ組織ス

第四條 第二條ノ目的ヲ達スル爲ニ左ノ事業ヲ行フ

1 生徒ノ入學竝ニ出席ノ督励

2 資材整備ニ對スル援助

3 學校ノ諸行事ニ對スル後援

4 學校教育ニ資スル爲メノ講演會座談會等ノ開催

5 其他第二條ノ目的ニ副フヘキ事業

第五條 本會ニハ左ノ役員ヲ置ク

1 會長 一名

2 副會長 二名

3 評議員 若干名

4 幹事 若干名

第六條 本會役員ノ任務ヲ定ムルコト左ノ如シ

1 會長ハ會務ヲ統理ス

2 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

3 評議員ハ毎年度ノ豫算、決算竝ニ會長ノ諮問ニ應ジ重要會務ヲ審議シ竝ニ會費ノ徵集ヲスルモノトス

第七條 4 幹事ハ會長ノ命ニ依リ本會ノ庶務及會計ノ事務ニ從事ス  
本會會長ハ總會ノ推薦ニヨリ副會長以下ノ役員ハ會員ノ互選トス

但シ時機ニヨリ總會ノ承認ヲ得テ互選ヲ省略シ會長ノ推薦ニヨルコトアルベシ

第八條 本會役員ノ任期ハ各二ケ年トス 但シ役員ハ其ノ任期満了セシ場合ト雖モ後任者確定迄ハ其

第九條 ノ任務ニ従事スベキ義務アルモノトス  
重要會務ヲ諮問スルタメ本會ニ顧問ヲ置クコトヲ得

顧問ハ朝里青年學校ノ振興ニ特別功勞アル者又ハ村内在住ノ名望家ニシテ評議員會ヨリ推薦  
セラレタルモノトス

第十條 本會ノ會合ハ總會、評議員會ノ二トシ總會ハ毎年一回（八月）評議員會ハ必要ニ應ジ隨時之ヲ  
開ク

第十一條 總會ニ提出スベキ事項左ノ如シ

- 1 事業及決算報告
- 2 會則ノ改正
- 3 表彰ニ關スル事項
- 4 役員選任
- 5 其他

第十二條 評議員會ニ提出スベキ事項左ノ如シ

- 1 毎年度ノ豫算決算ノ審議
- 2 其他必要ナル會務ノ審議

第十三條 本會ノ經費ハ會費及篤志家ノ寄附ニヨルモノトス

第十四條 會費ハ一人年額五拾錢トス 但シ納期ヲ七月末日マデトス

以上

本會役員左記ノ如シ 昭和十三年十月十七日總會ノ議決ニ依ル

會長 小松市郎

副會長 新谷久五郎



副會長 熊谷光雄

評議員

德光朔次郎 松浦勝彦 吉崎喜八 小林廣 金谷正介 福士武夫 木村榮藏 山口悦郎

德光富太郎 原田龜次郎 後藤多三郎 筒井榮作 林岩太郎 林多三郎 井原哲男 片岡直治

前田武 播摩与三郎 大平金作 龜田鶴松 小林米藏 松永初太郎 笠原鐵三 井原營太郎

前田清 澁谷善太郎 熊谷正 畠中重作 伊藤省一 山田伊勢吉 以上三十名

幹事ハ學校職員

拝啓

時下益々御清祥賀上げ候

陳者去る十七日の本會創立總會に於て貴下は本會評議員に當選致し候については御繁務の貴下には誠に御迷惑の事とは存じ候へ共本村青年教育振興のために何卒御承認御盡瘁成被下度此段御依頼申上候

追而来る二十八日午後六時半より朝里小學校に於て第一回評議員會を開催し本年度予算並に事業計画につき御協議申上度につき萬障お繰合せ御出席成被下度御案内申上候

十月二十七日

朝里青年學校後援會長 小松市郎

殿

本會創立總會ノ議決ヨリ  
貴下ヲ評議員ニ推舉ス

昭和十三年十月十七日

朝里青年學校後援會長小松市郎



小林 廣殿

拝啓

本會評議員會本日（廿八日）開催予定の所本日午後六時より漢口陥落奉祝提灯行列があることになりましたので  
来る三十日午後六時半より開催する事に予定変更致しましたから御含み下され度 三十日は萬障お繰り  
合わせ御出席お願い申し上げます。

敬具

十月二十八日

朝里青年學校

後援會長

小松市郎

各評議員殿

拝啓

毎度本會のために御配慮を頂き感謝の至りに存じます。

扱て兼て御申合せの會費領収書別紙の通り作製しましたから来る十五日までに徴収取りまとめの上朝里  
小学校までお届け下さる様お願い申し上げます。一般會員の方には八日から十五日までの中に會費徴収  
に伺ふからといふ事を云ってやっておきましたからお含みおき下さい。

尚會員名簿別紙の通り御送り申しますから御近所の方で未だ入會してゐない方がありましたら御勧誘  
下さいます様お願い致します。

十一月七日

朝里青年學校

後援會長

小松市郎

各評議員殿

兼て御賛成をいただき居りました本會會費を明八日から十五日までの間にそれぞれ係の方々が頂戴に上がることになって居ります。

色々と物入りのかさむ時に誠に御迷惑のこととは存じますが何分よろしくお願い致します。

尚今度集めて頂く本年度の會費で

1 銃劔術の道具一揃

2 ラッパ二丁

をかつて頂くことになりましたからお含みおき下さい

十一月七日

朝里青年學校

後援會長

小松市郎 印

會員各位

朝里青年學校後援會々員名簿 (昭和十三年十一月現在)

村上米作	渋谷善太郎	渡辺作藏	栗津 猛	鷺田仁三郎	新谷久五郎	福士忠治
徳光ミヨ	高橋源之助	吉村豊作	播摩與三七	牧田甚太郎	片岡直治	○能登吉藏
久家三次郎	長 千里	西村富三郎	金沢治助	牧田瀧藏	大平金作	金谷正介
山口悦郎	藤平喜三郎	筒井榮作	小林 只	川俣宇助	片岡 秀	○上林安太郎
原田ハギ	岡芹久富	久家壽雄	小林平作	奥田兼助	辻 才卜	○本間三郎
土田又三郎	宮崎助松	小黒松次郎	小澤三次郎	林 岩太郎	中田金藏	棚山三次
木村榮藏	熊谷 正	渡辺善吉	小林末松	小堀勇松	谷村己作	太田一由
小林作太郎	畠中重作	徳光昇藏	井原喜作	渡辺吉太郎	大平傳三郎	須藤彌右衛門
宮田勝彦	加藤吉松	荒木虎雄	牧田佐太吉	大橋廣度	○小林 廣	田中熊吉
大谷谷藏	奥村小次郎	徳光富太郎	播摩松太郎	播摩シガ	○吉崎喜八	遠山文助
渡辺岩藏	前田太三郎	原田清一	北村庄三	西尾倉治	○打矢峰太郎	三浦虎之助
佐々木市太郎	金子良太郎	藤島太市	前田富太郎	仁科代助	○小松市郎	三津松太郎
森田長藏	高野信一	渡辺仁太吉	播摩與佐	小堀サク	金谷雄松	○渡辺宗作
中田由太郎	藤川哲治	小山定之助	野崎忠吉	藤田外太郎	○附家長太郎	○奥山作次郎
工藤常太郎	伊藤省一	○後藤多三郎	本間利市	林 多三郎	○永山喜作	本庄保太郎
神田ミキ	尾崎寛雄	本田庄一	干場幸吉	三津外松	○鎌田京藏	盛 勇三
竹内源次郎	山田伊勢吉	小林末吉	榎 俊三郎	小堀正松	佐々木文雄	大島松藏
瀬川倉次郎	福村要吉	松永安太郎	林 多作	水間喜作	石橋 定	外分會員一同
中谷ハツエ	森 政幸	和田幸次郎	永山福太郎	形部貞太郎	○高橋喜代作	○印十四名分
芝田政治	斉藤鶴泰	松永 猛	斉藤宗治	木村豊次郎	大友初太郎	十三年度分
奥井作次郎	畠中喜作	西井友次郎	横川常次郎	太田代謹郎	山口林次郎	金七圓也
前田 清	蔭川正通	小林条作	笠原鐵三	桑川友行	原田亀次郎	十二月九日
熊谷光夫	加藤幸太郎	鷺田知一郎	井原營太郎	亀田鶴松	金谷久次郎	納入ス

拝啓

本会副會長熊谷少尉殿今回名譽の招集を受け来る三月三十一日午後〇時二分發列車にて出發せらるゝ事に相成り候につき本会役員は萬障御繰合せ朝里駅にて御見送り下され度此段御通知申上候

匆々

三月二十八日

朝里青年學校

後援會長 小松市郎

各役員殿

謹啓

愈々陽氣相加はり申候折柄各位益々御健勝賀上

偕而来る四月一日午後七時より朝里青年學校本年度入學式を舉行致し候間御繁務中恐入り候へ共青年御奨励の思召を以て枉げて御臨席成被下度此段御案内申上候

追而入學式修了後引続き評議員会を開催し昭和十四年度予算並ニ昭和十三年決算御審議相願度につき此段申添候

三月二十八日

朝里青年學校後援會長

小松市郎

朝里青年學校長

秋元元太郎

小林 廣 殿

昭和十三年度 収支決算

収入ノ部

項目	予算	決算	附記
會費	九九 円	七八 円	一人五〇錢ノ一五六人分

支出ノ部

項目	予算	決算	附記
事務費	一、五 円	〇、七五 円	會長、會名印
備品費	一、八 円	一、八 円	ザラ半紙、辞令用紙
通信費	三、一五 円	四、二五 円	銃劔術用具
後援費	八五、八 円	六二、八 円	卒業式賞品
選賞費	二、 円	一、五 円	南樽駅汽車賃に各拂
雜費	四、七五 円	〇、二 円	
計	九九 円	七一、三 円	

差引残額 六円七拾錢也 次年度繰越

納金書

昭和十四年度分會費左記ノ通り納金候也

昭和十五年三月十三日

小林 廣

朝里青年學校長 秋元元太郎 殿

記

吉崎喜八 小林廣 小松市郎 本間三郎 打矢峯太郎 柳田元三郎 藤田春勝 奥山五三郎  
奥山作次郎 上林安太郎 附家長太郎 鎌田京藏 花田正良 津田運吉 能登吉藏 佐藤々吉  
永山末作 布施邦彦 中島由太郎 渡辺宗作 以上二十名

金 拾圓也 一名当リ五十錢也



小林 廣 様

拝啓

各位の熱心な御後援に依りまして本會も逐次整備充実して来ました事は青年教育振興のためにこの上ない愉快なことで存じます。

昨年はお陰様で左記十三年度収支決算にもあります通り相當程度の事業を遂行する事が出来 本年はまた左記十四年予算書の通り仕事をつゞけて行きたいと存じます。

御承知の通り青年學校も本年より義務制になりましたので朝里青年學校の生徒も今年四月から一躍倍の五十五名になったとの事で而も生徒の張りきつてゐる今日各位の一層な御援助をいただいて朝里青年學校のため一層活動して行きたいと存じます。

近々に本會役員の方々が本年度分の會費をいただきに参上致しますからその節はよろしく御願ひ致します。

五月 日

朝里青年學校後援会長 小松市郎

會員各位殿

昭和十三年度収支決算

収入ノ部

項目	決算額	附記
會費	七八、〇〇円	一人五〇銭トシテ一五六人分

支出ノ部

項目	決算額	附記
事務費	〇、七五円	出納簿、見出紙、封筒、肉池、朱インク、インク台
備品費	一、八〇円	會長印、會名印
通信費	四、二五円	更半紙、辞令用紙
事業費		
1 用具整備	六二、八〇円	銃劔術用具一組
2 選賞費	一、五〇円	卒業式賞品
雜費	〇、二〇円	小樽への使
計	七一、三〇円	汽車賃往復

差引残額六円七拾錢也 次年度繰越

昭和十四年度予算

収入ノ部

項目	金額	附記
會費	八〇、〇〇円	一人五〇銭トシテ一六〇人分
繰越金	六、七〇円	前年度ヨリノ繰越
計	八六、七〇円	

支出ノ部	金額	附記
項目		
事務費	一、〇〇円	
通信費	五、四〇円	更半紙封筒
事業費		
1 整備	六五、〇〇円	背囊 六円モノ一〇ヶ
2 選賞費	二、〇〇円	徽章精勤章 其他五円
雜費	二、〇〇円	卒業式賞品代
豫備費	一一、三〇円	
計	八六、七〇円	

拝啓、残暑の折柄にも不拘貴下益々御清祥賀上候 陳者来る二十二日午後五時より朝里小學校に於て本會  
 總會開催致し左記事項協議致度につき萬障繰合せ御出席成被下度此段御案内申上候

八月 日

朝里青年學校後援會長 小松市郎

小林 廣 殿

記

- |   |            |       |
|---|------------|-------|
| 一 | 昭和十三年度決算報告 | 附事業報告 |
| 二 | 昭和十四年度予算報告 | 附事業計画 |
| 三 | 其他         |       |

拝啓

別紙の通り本會總會を開催する事になりましたから御手数でも貴部内各會員へ別紙御配布の上成るべく多数出席するやう督励下され度御願ひ申し上げます

八月十八日

朝里青年學校後援会長

小松市郎

評議員

殿

追而貴部内に未入會の方がありましたらこの際入會さして頂く様特段のお骨折を重ねて御願申します

拝啓、残暑きびしき折柄皆さまには益々御健勝何よりのことと存じます。陳者昨年皆さまのお力添によりまして別紙決算書の通り設備が出来まして生徒は勿論のこと本會役員一同深く感謝して居ります厚く御礼申し上げます。

さて今年も別紙予算書の通り事業をつづけて行きたいと思ひますので近日中各係員が會費をいただきに上がる事になつて居ます。時節柄物入りの重つてゐる昨今誠に恐入ますが堅実有爲な第二の村民をつくる意味においてその節は何分よろしく御願ひ致します

敬具

九月 日

朝里青年學校後援會長

小松市郎

小林 廣 殿

朝里青年學校後援會 役員及會員名簿

會長 小松市郎

副會長 新谷久五郎、熊谷光雄

評議員 德光朔次郎 松浦勝彦 吉崎喜八 小林廣 金谷正介 富士武夫 木村榮藏 山口悦郎

德光富太郎 原田龜次郎 後藤多三郎 筒井榮作 林岩太郎 林多三郎 井原哲男

片岡直治 前田武 播摩与三郎 大平金作 龜田鶴松 小林米藏 松永初太郎 笠原鐵三

井原營太郎 前田清 澁谷善太郎 熊谷正 畠中重作 伊藤省一 山田伊勢吉

幹事 學校職員

會員

大平金作 松永初太郎 渡辺善太郎 井原營太郎 井原喜作 原田ハヅ 中田由太郎

本間利市 鷺田仁三郎 奥田兼助 牧田甚太郎 播摩松太郎 木村榮藏 小山定之助

北村庄三 本田庄一 西尾倉治 牧田瀧藏 前田富太郎 山口悦郎 荒木虎雄

榎 俊三郎 小林米吉 藤田外太郎 野崎忠吉 渡辺岩藏 藤島太市

新谷久五郎 松永安太郎 大橋廣度 金澤治助 川俣宇助 久家三三郎 渡辺仁太吉

龜田鶴松 和田幸次郎 小堀正松 小林 只 形部貞太郎 宮田勝彦 土田又三郎 德光昇造

大平傳三郎 松永 猛 小堀勇松 小林平作 水間喜作 村上米作 西村富三郎

井原鉄男 西井友次郎 林 多作 小林末松 林 多三郎 木村榮七 久家壽雄

小林米造 鷺田智一郎 永山福太郎 牧田佐太吉 三津外松 德光ミヨ 小黒松次郎

播磨與三郎 栗沢 猛 斉藤宗治 播摩與佐 小堀サク 瀨川倉次郎

前田 武 横川常次郎 播摩與三七 仁科代助 小林作太郎 渡辺善吉

村山 庄助 笠原鐵三 干場幸吉 播摩シガ

林 岩太郎

後藤 彦三郎	高橋 喜代作	渡辺 宗作	渡辺 作藏	伊藤 省一	岡 芹久富	奥村 小次郎
小林 廣	大友 初太郎	奥山 作次郎	福士 忠治	山田 伊勢吉	宮崎 助松	前田 太三郎
吉崎 喜八	山口 林次郎	本庄 保太郎	三浦 虎之助	藤川 哲治	畠 中重作	中谷 ハツエ
打矢 峯太郎	能登 吉藏	盛 勇三	大島 松藏	高橋 源之助	加藤 幸太郎	芝田 政治
小松 市郎	金谷 正介		片岡 直治	尾崎 寛雄	藤平 喜三郎	奥井 作次郎
金谷 雄松	上林 安太郎	徳光 富太郎	太田 代謹郎	福村 要吉	畠 中喜作	
附家 長太郎	本間 三郎	金谷 久次郎	糸川 友行	高野 信一	長 千里	神田 ミキ
永山 喜作	棚山 三三	原田 亀次郎	辻 オト	森 政幸	斉藤 鶴松	工藤 常太郎
鎌田 京藏	太田 一由	石橋 定	片岡 秀	前田 清	熊谷 正	森田 長藏
佐々木 文雄	須藤 彌右衛門	原田 清一	中田 金藏	熊谷 光夫	金子 良太郎	佐々木 市太郎
	三津 松太郎	吉村 豊作	木村 豊次郎	澁谷 善太郎	加藤 吉松	

拝啓

残暑きびしき折柄にも不拘貴下益々御健勝賀し上げます。

偕て来る十四日午前九時より銭函ゴルフ場に於て長友大佐殿により本年度の教練査閲が御座いますから御繁忙中の事とは存じますが時局柄でも御座いますので枉げて御臨席の上御指導御鞭撻賜はり度この段御案内申上げます。

敬具

九月十二日

朝里青年學校長

秋元元太郎

小林 廣 殿

追而在郷軍人分會員の方にお願ひ申上げますが御都合差繰りお出での上お手傳賜はりますれば有り

難い幸いと存じます。

拝啓

御多用ノ處誠ニ恐レ入リマスガ、今年モ亦會費取立テノ方一ツ御願ヒ申シマス 期日ハ本月二十日マデニ御取マトメ願ヒタイモノト思ツテキマス。

會費ノ切符ハ貴下ノ分ヲ吉崎喜八氏ニ御送り致シテオキマスカラ御協力ノ上何分ヨロシク御頼ミ致シマス

尚切符ハ豫分ニ差上ゲテオキマスカラオ知合ノ方デ未ダ入會シテホナイ方ガアリマシタラ極力ススメテ入會スルヤウニオ骨折リ下サイ

敬具

九月 日

朝里青年學校後援会長 小松市郎

評議員

小林 廣 殿

小樽郡朝 里青年學 校後援會 長之印
-----------------------------

冠省

御多忙中恐縮ですが別紙差上げますから御都合のよろしき時に御願致します  
同封領収証の中

奥山五三郎様 柳田様 藤田様 高崎様 花田正良様 津田運吉様 佐藤々吉様 布施邦彦様  
今度新に入って頂く方ですから御含みおき下さい  
右御願いまで

早々

三月八日

秋元元太郎

小林 廣 様



朝里叢書第六卷

朝里青年團史

第一版第一刷

小林 廣 編

翻刻

小樽・朝里まちづくりの会 朝里遺産部会

小元理男 末永 通 瀧内淳子 守谷明宏

協力

奥山 稔

監修

朝里郷土史資料調査研究所

主宰

小林定典

発行日(第一版)

平成二十年四月二十四日

発行

NPO法人 小樽・朝里まちづくりの会

事務局

小樽市新光四丁目一番十六号

北海道新聞中販売所内

朝里遺産部会連絡先 [suenaga@asari.cc](mailto:suenaga@asari.cc)